

2025 年度（令和 7 年度）

学生生活実態調査等 報告書

学生サポート委員会

2026 年 4 月 24 日

目 次

はじめに	．．．．． 2
Ⅰ) 学生生活実態調査	
Ⅰ．住まい及び経済状況について	．．．．． 5
Ⅱ．生活の状況について	．．．．． 11
Ⅲ．履修・学修について	．．．．． 13
Ⅳ．進路（キャリア形成）について	．．．．． 19
Ⅴ．施設・大学生活について	．．．．． 22
総 括	．．．．． 27

はじめに

本学では、調査結果を基に学生の課題を把握し、教育研究活動のサポートにつなげることや大学運営に反映させる目的で、「学生生活実態調査」を実施しています。

今年度に関しては 2024 年に実施した質問内容を軽微に変更し調査を実施しました。また、実施方法は、学生の記入ミスなど、情報を正確に取得する目的で、匿名性を廃止（学生のメールアドレスを自動取得）し、Google フォームで回答集約形式にて実施しました。調査項目の結果・分析・課題・改善については、各調査項目にまとめております。ご参照ください。

1. 調査の趣旨等

調査を通し、学生支援や学修支援の取り組みの効果を確認し、より快適な学生生活に必要な制度や環境を整備する。また、安心・安全な学修環境の実現に必要な制度を整備する。

2. 対象

表 1 2025 年 9 月 1 日現在、名桜大学に所属する学群・学部の学生（全学生） 2,383 人

	国際学類	国際文化 学科	国際観光 産業学科	スポーツ 健康学科	看護学科	健康情報 学科	合計
1 年次	0	185	160	106	87	84	622
2 年次	3	207	168	101	87	80	646
3 年次	24	158	161	106	87	44	580
4 年次	323			115	97		535
合計	350	550	489	428	358	208	2383

3. 実施期間及び調査方法

期間：2025 年 9 月 24 日（水）～10 月 17 日（金）

調査方法：Google form を活用したウェブ調査

4. 回答状況

表 2 回答状況 回答数 1,355 人（56.8%）

	国際学類	国際文化 学科	国際観光 産業学科	スポーツ 健康学科	看護学科	健康情報 学科	合計
1 年次	0 (0.0)	122 (65.9)	103 (64.4)	84 (79.2)	79 (90.8)	75 (89.3)	463 (74.4)
2 年次	0 (0.0)	111 (53.6)	111 (66.1)	68 (67.3)	74 (85.1)	54 (67.5)	418 (64.7)
3 年次	1 (4.1)	85 (53.8)	60 (37.3)	48 (45.3)	78 (89.7)	39 (88.6)	311 (53.6)
4 年次	113 (35.2)			25 (21.7)	25 (25.8)		168 (30.5)
合計	114 (32.5)	318 (57.8)	274 (56.0)	225 (52.6)	256 (71.5)	168 (79.6)	1355 (56.8)

5. 調査別回答数

- 1) 学生生活実態調査 ……1,355 件の回答 (56.3%)
- 2) ハラスメント・犯罪・薬物被害等に関する調査 ……1,203 件の回答 (50.5%)

6. 調査項目

- 1) 学生生活実態調査
 - I 住まい及び経済状況について (11 項目)
 - II 生活の状況について (2 項目)
 - III 履修・学修について (12 項目)
 - IV 進路 (キャリア形成) について (3 項目)
 - V 施設・大学生活について (9 項目)

7. 結果・分析・課題・改善

各調査項目参照

I 学生生活実態調査

I. 住まい及び経済状況について

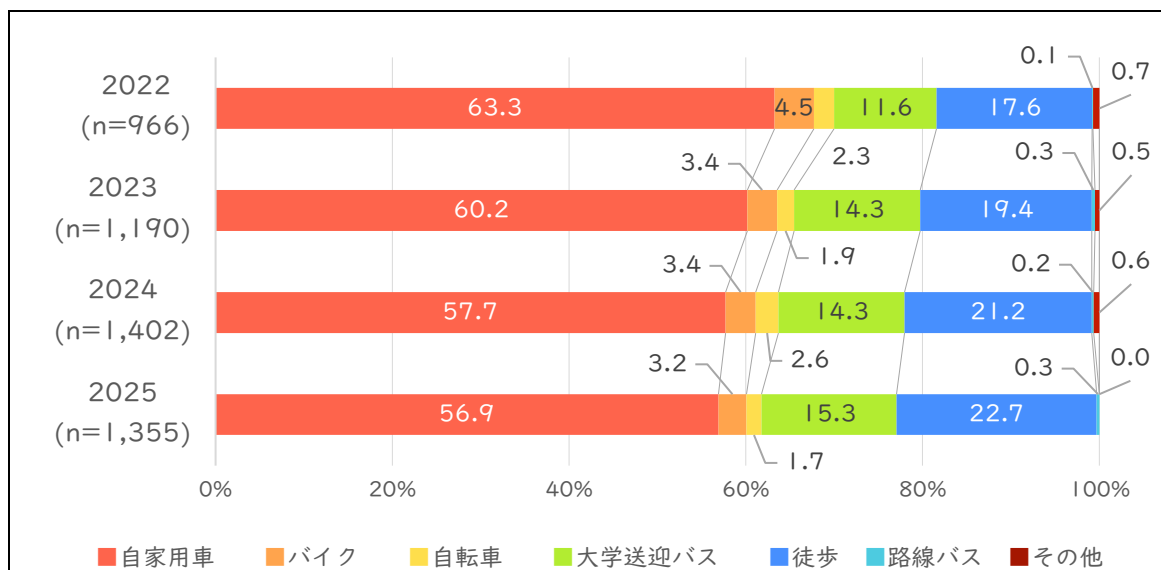


図1 通学手段 (%)

通学手段に関する調査では、「自家用車」と回答した学生の割合は56.9%となり、過去3か年の調査結果と比較すると減少傾向にある。一方、「徒歩」と回答した学生は22.7%となっており、こちらは増加傾向にある。また、「大学送迎バス」と回答した学生は15.3%とこちらも増加傾向にある。

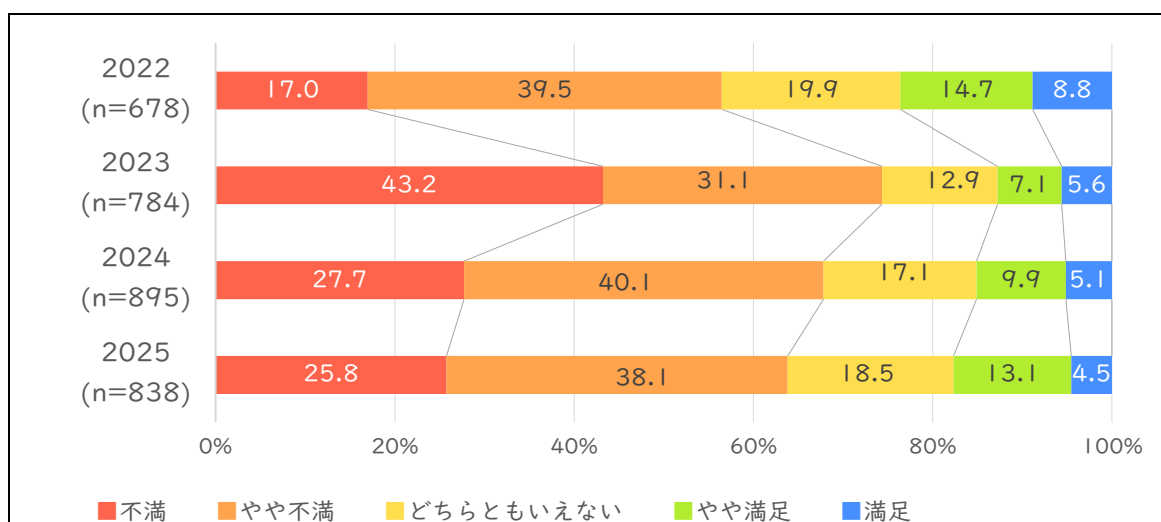


図2 駐車場・駐輪場に対する満足度 (%)

駐車場・駐輪場に対する満足度調査では、「満足」または「やや満足」と回答した学生は17.6%となっており、前回調査（2024年度）と比較すると2.6ポイント増加した。一方、「不満」と回答した学生は25.8%で、前回調査（2024年度）と比較すると1.9ポイント減少した。これは、学生駐車場が増設されたことが要因だと考えられる。

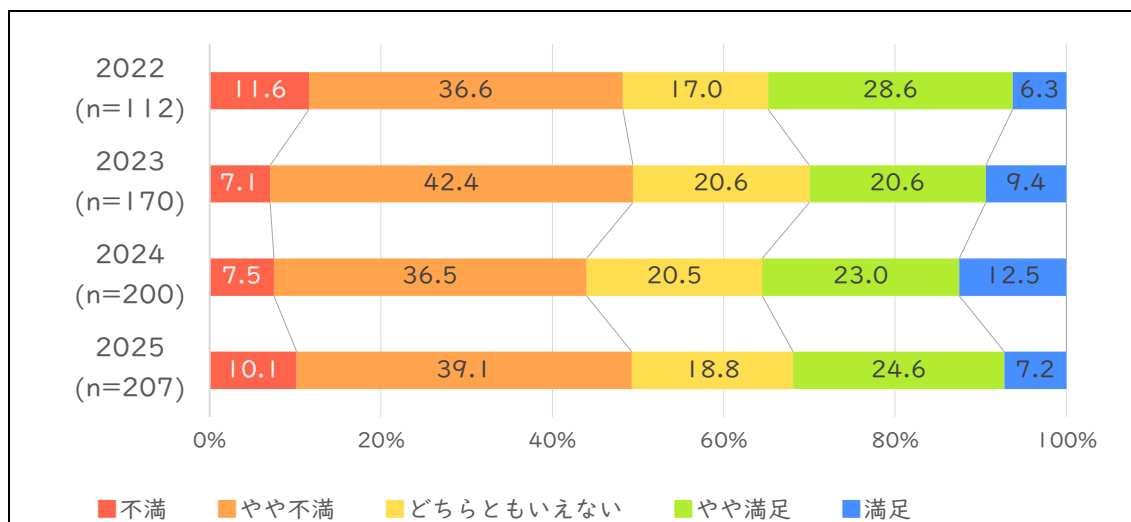


図3 大学送迎バスに対する満足度 (%)

大学送迎バスに関する満足度調査では、「満足」または「やや満足」と回答した学生は31.8%となっており、前回調査（2024年度）と比較すると3.7ポイント減少した。また、「不満」あるいは「やや不満」と回答した学生は49.1%で、前回調査（2024年度）と比較すると5.1ポイント増加し、以前高い割合である。

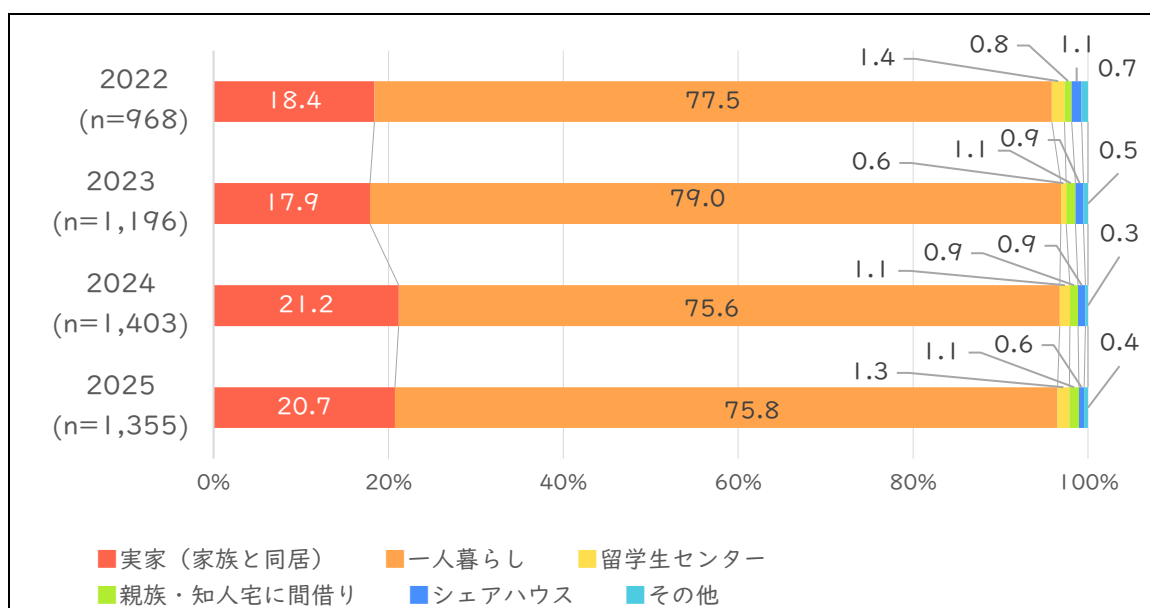


図4 居住形態 (%)

居住形態に関する調査では、「一人暮らし」と回答した学生は75.8%と最も高く、次に「実家（家族と同居）」が20.7%となっており、前回調査（2024年度）と比較すると0.5ポイント減少している。過去2か年の調査結果から大きな変化は見られない。

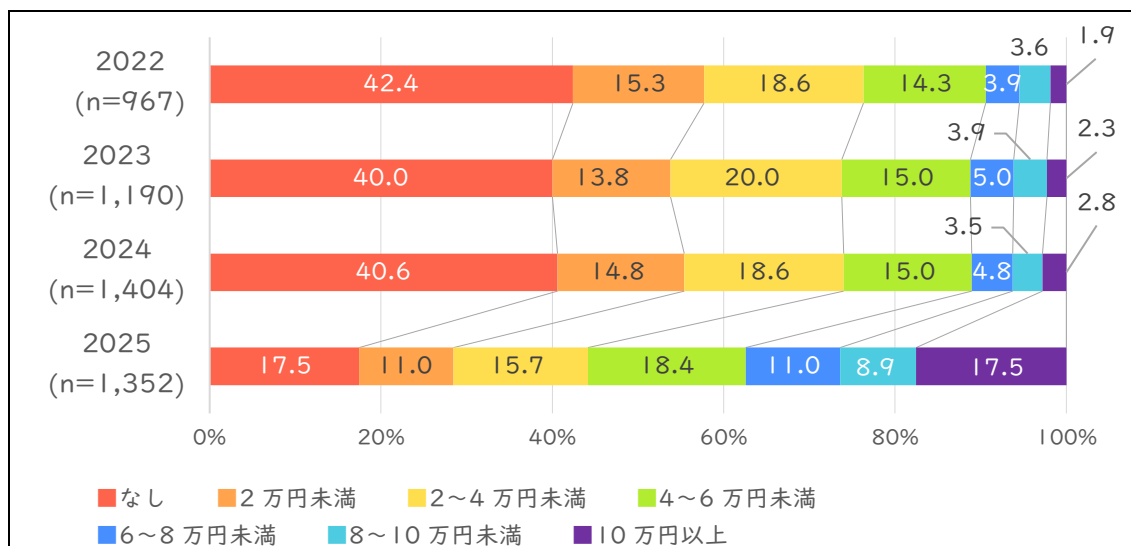


図5 家族からの仕送りの平均月額（学納金を含む）＜2025年度質問内容変更＞（％）
→2024年度以前は、（学納金を含まない）

家族からの仕送り（小遣い）の平均月額に関する調査は、「なし」「10万円以上」と回答した学生は17.5%と最も多い。次に「4～6万円未満」が18.4%、「2～4万円未満」が15.7%となっている。

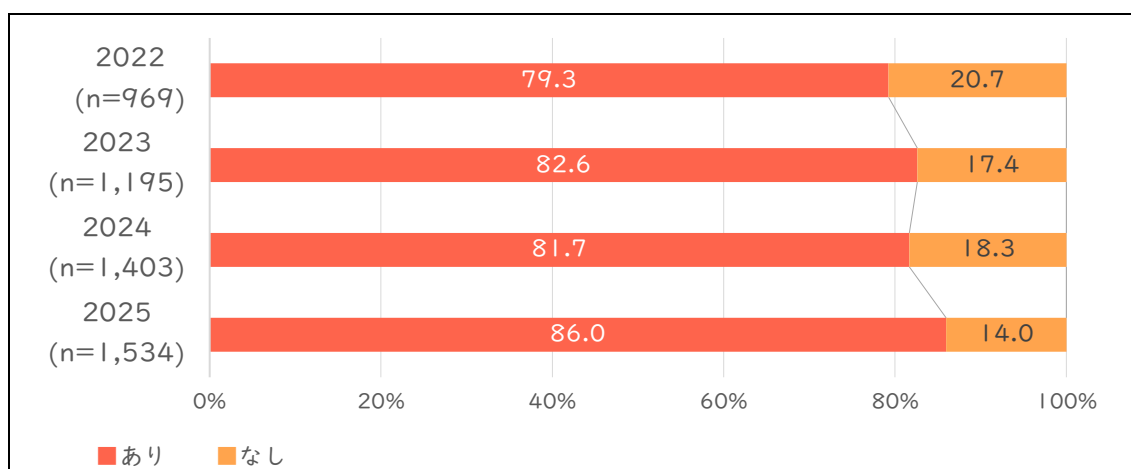


図6 アルバイトの有無（％）

アルバイトの有無に関する調査では、「あり」と回答した学生は86.0%となっており、前回調査（2024年度）と比較すると4.3ポイント増加した。過去2か年の調査結果から、約8割の学生が何らかのアルバイトに従事している。

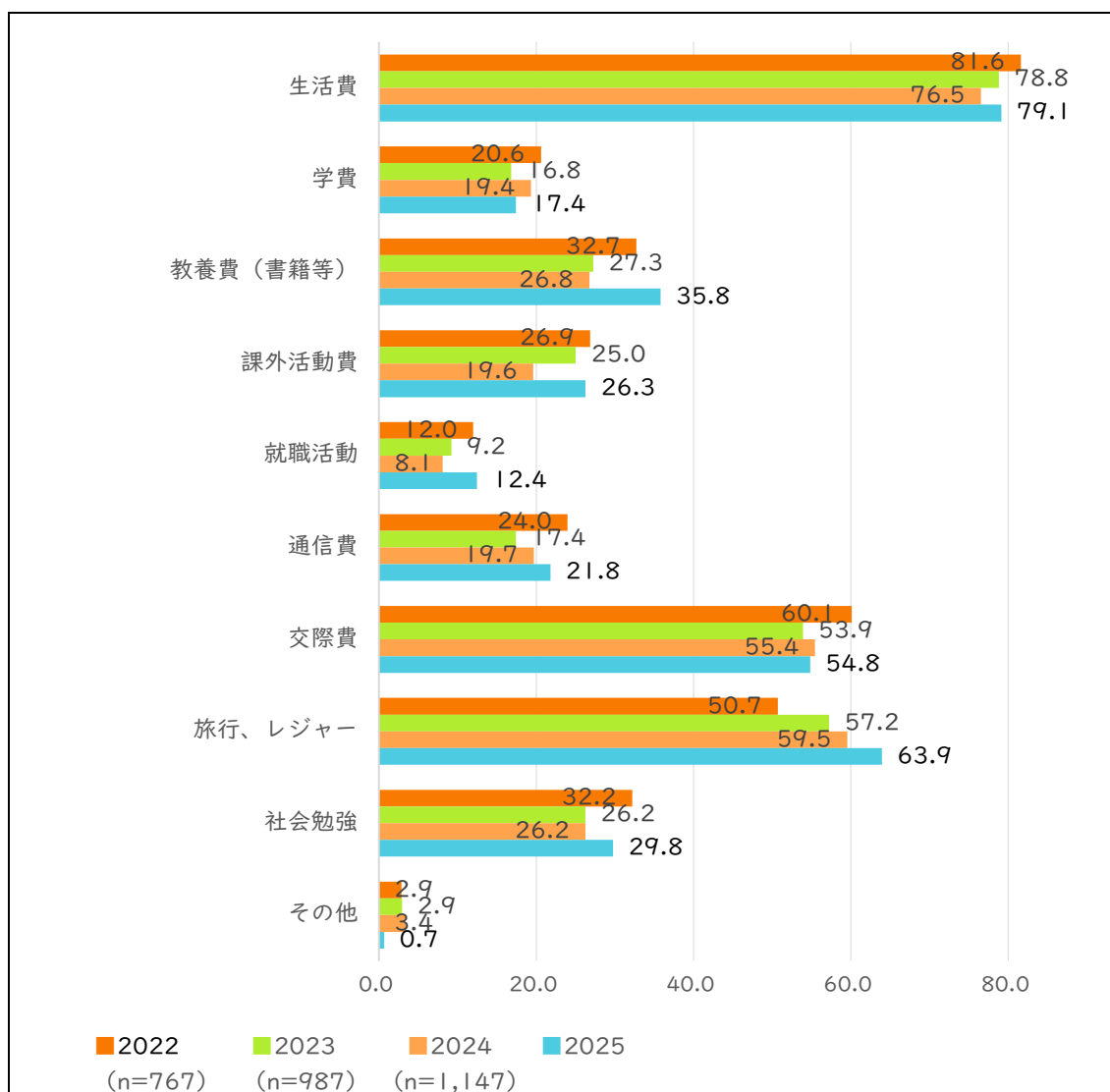


図7 アルバイトの目的（複数回答可）（％）

アルバイトの目的に関する調査では、「生活費」と回答した学生が79.1%と最も多く、次に「旅行、レジャー」が63.9%、「交際費」が54.8%と続いている。2022年度から2025年度の調査結果から、「教育費（書籍等）」及び「旅行、レジャー」が増加傾向にある。

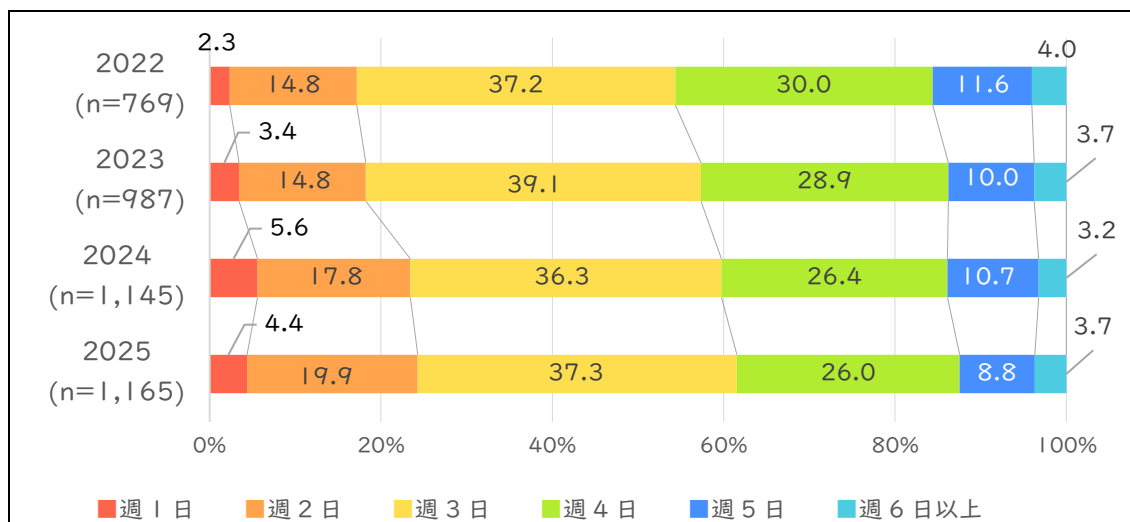


図8 アルバイトの頻度 (%)

アルバイトの頻度に関する調査では、「週3日」と回答した学生が37.3%と最も多く、次に「週4日」が26.0%となっている。過去3か年の調査結果から、週2日～3日の学生の割合が徐々に増加しており、2022年度調査から今年度の調査まで5.8ポイント増加している。

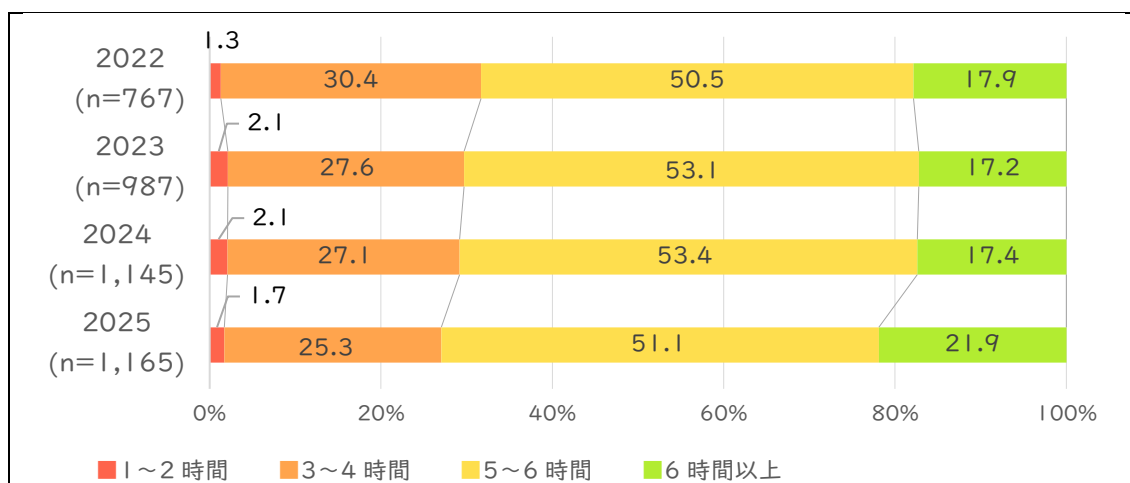


図9 一日あたりのアルバイト時間数 (%)

一日あたりのアルバイト時間数に関する調査では、「5～6時間」と回答した学生は51.1%と最も多く、次に「3～4時間」が25.3%、「6時間以上」が21.9%となっている。前年度の調査結果から、「6時間以上」が4.5%増加している。

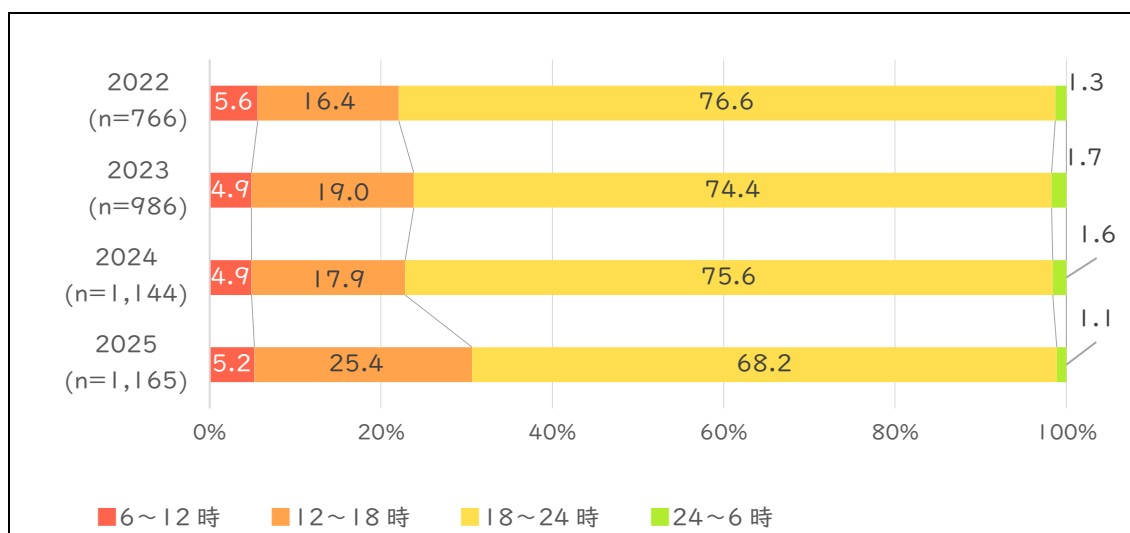


図 10 主なアルバイトの時間帯 (％)

主なアルバイトの時間帯に関する調査では、「18～24 時」と回答した学生は、68.2%と最も多く、次に「12～18 時」が 25.4%となっている。また、前年度の調査結果から「12～18 時」と回答した学生は、7.5%増加しており、「18～24 時」が 7.4%減少している。過去 3 か年の調査結果から、「24～6 時」と回答した学生の割合が一定数おり、深夜から明け方にかけてバイトに従事している学生がいる。

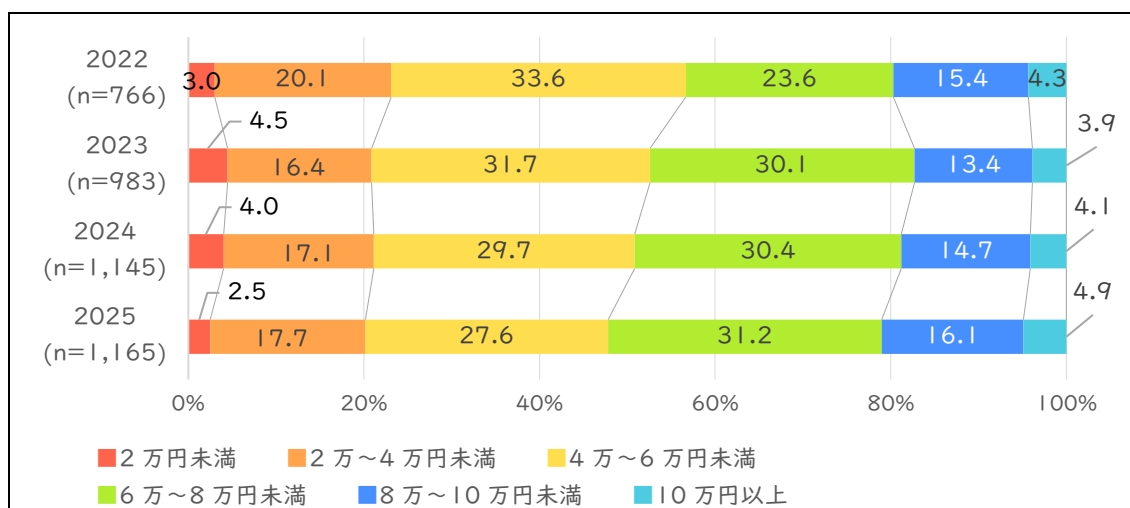


図 11 アルバイトの平均収入（夏休みなどの長期休暇期間を除く） (％)

アルバイト平均収入に関する調査では、「6 万～8 万円未満」或いは「4 万～6 万円」と回答した学生は 58.8%となっている。過去 3 か年の調査結果から、アルバイトの平均収入が 6 万円以上の学生は、8.9%増加していることに対し、4 万円以下は 2.9%減少している。

Ⅱ. 学生生活について

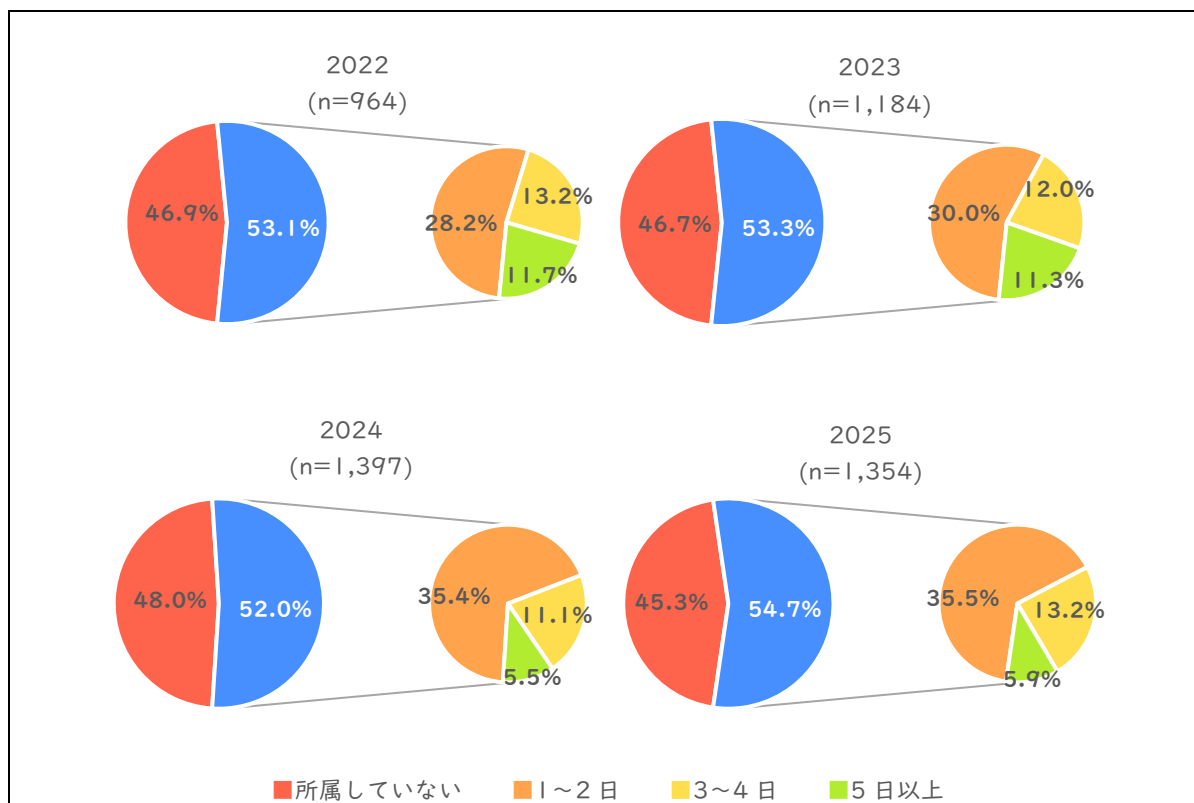


図 12 クラブ・サークル活動への参加頻度 (%)

クラブ・サークル活動への参加頻度では、2025 年は、前年度より所属していない学生が 2.7%減少している。所属している学生の活動状況で最も多いのが 1～2 日 35.5%、次いで 3～4 日 13.2%、5 日以上 5.9%であった。前年度の活動状況より日数に大きな変化はない。

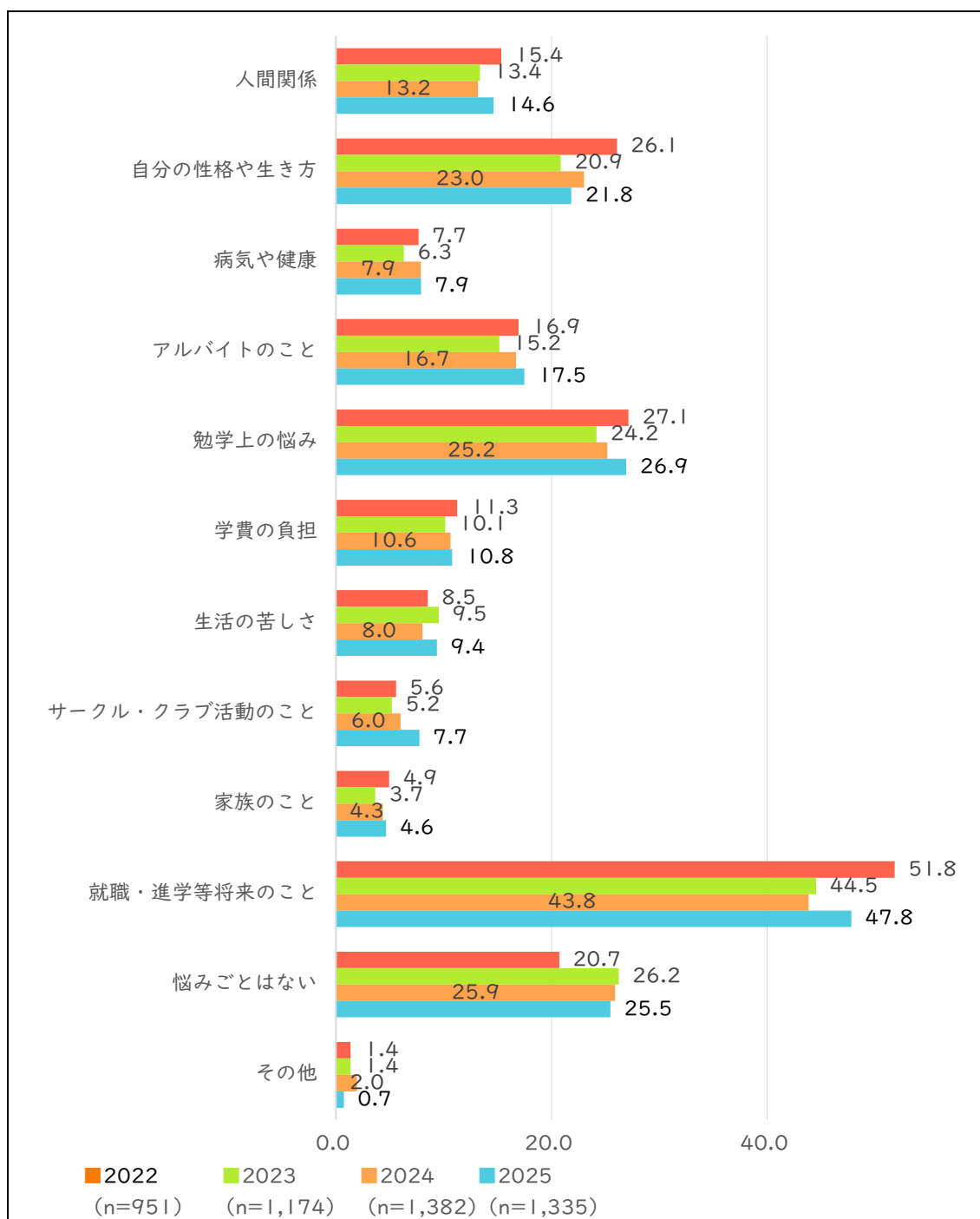


図 13 現在の悩み事（複数回答可）（％）

現在の悩みに関する調査では、「就職・進学等将来のこと」と回答した学生は、47.8%と最も多く、次に「勉学上の悩み」が26.9%、次に「悩みごとはない」が25.5%、「自分の性格や生き方」が21.8%と続いている。前年度の調査結果から「就職・進学等将来のこと」で、前々回調査(2022年度)と比較すると8.0ポイント減少している。

Ⅲ. 履修・学修について

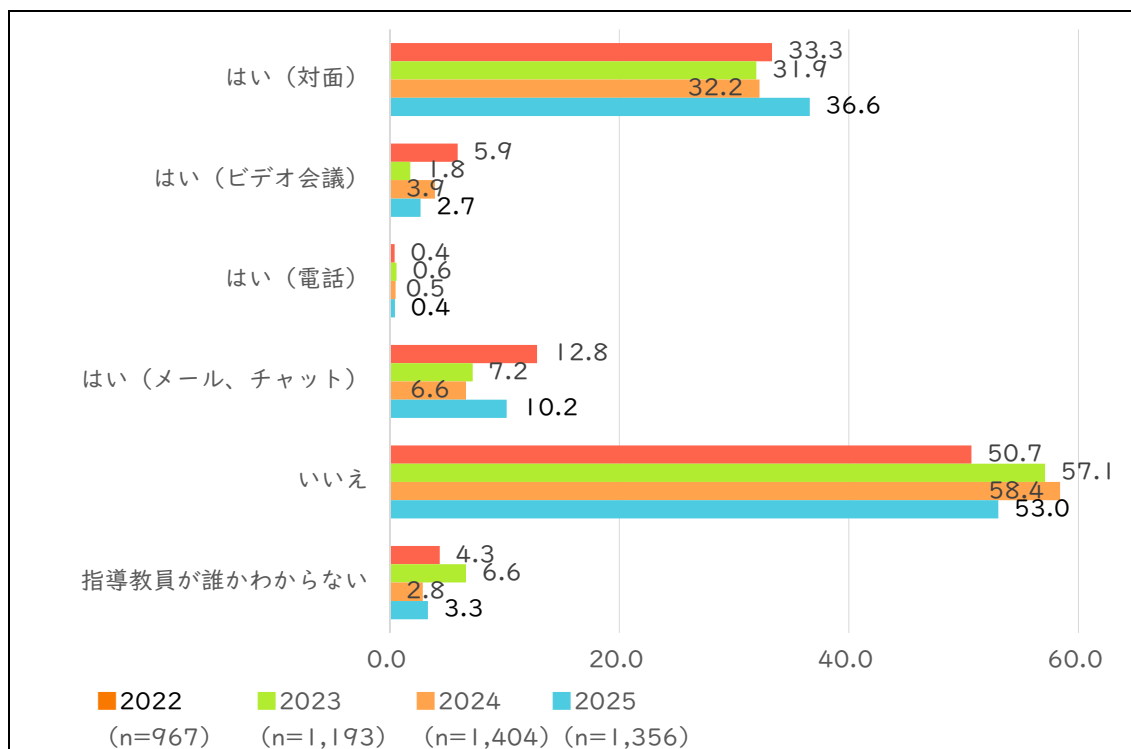


図 14 今年度、指導教員から履修指導を受ける機会の有無（複数回答可）（％）

指導教員から履修指導を受ける機会の有無に関する調査では、「いいえ」と回答した学生が53.0%と最も多く、過去3か年の調査結果から増加傾向にある。次に「はい（対面）」で36.6%となっており、前年度から4.4ポイント増加している。

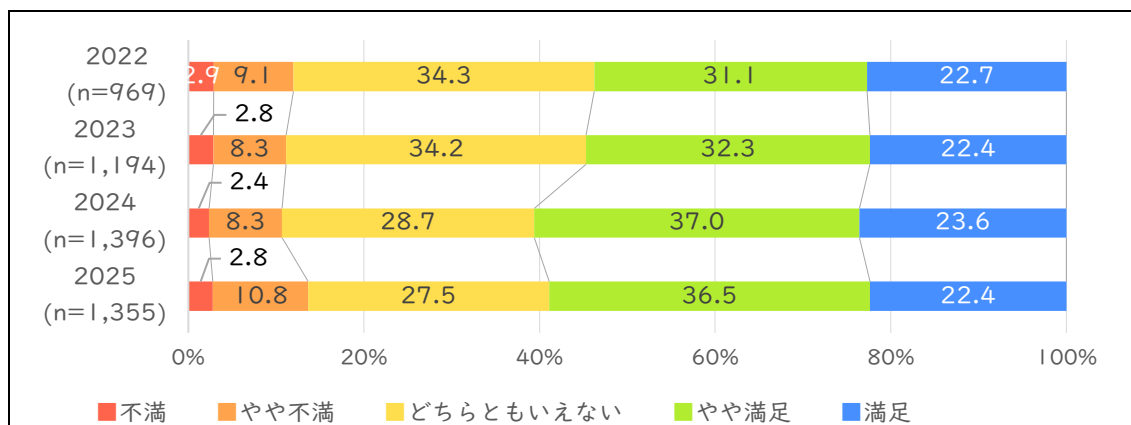


図 15 現在の履修支援の仕組みの満足度（％）

履修支援の仕組み満足度に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生は58.9%となっており、前回調査（2024年度）と比較すると3.6%減少している。一方、「不満」或いは「やや不満」と回答した学生の割合は、前回調査（2024年度）より2.6ポイント増加している。

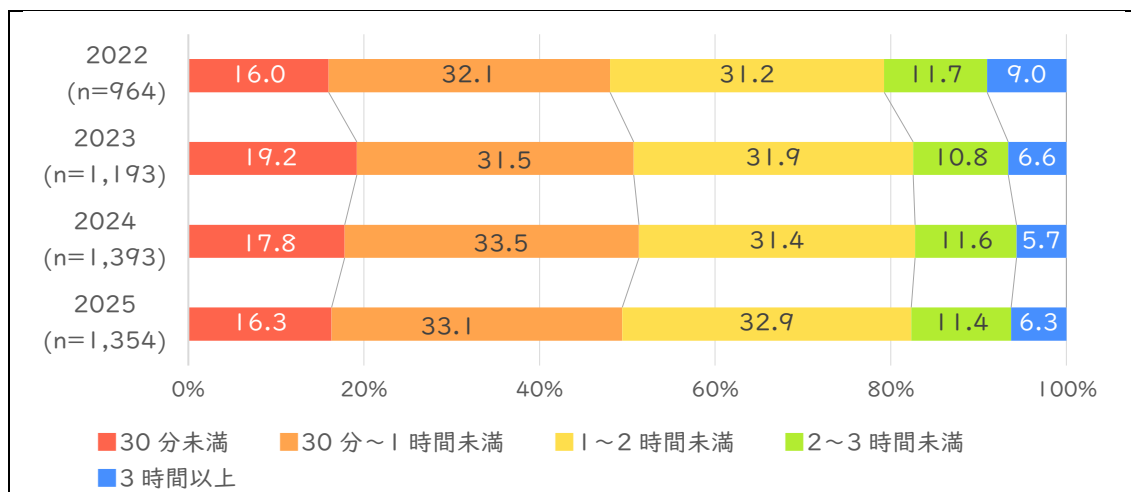


図 16 授業時間以外の自己学習の時間（1日平均）（％）

授業時間以外の自己学習の時間に関する調査では、「3時間以上」と回答した学生は、2022年度から1.0ポイント減少し6.3%となっている。割合として最も高いのは「30分～1時間未満」で33.1%となっており、次に「1～2時間未満」で32.9%と、前回調査（2024年度）と大きな変化ない。

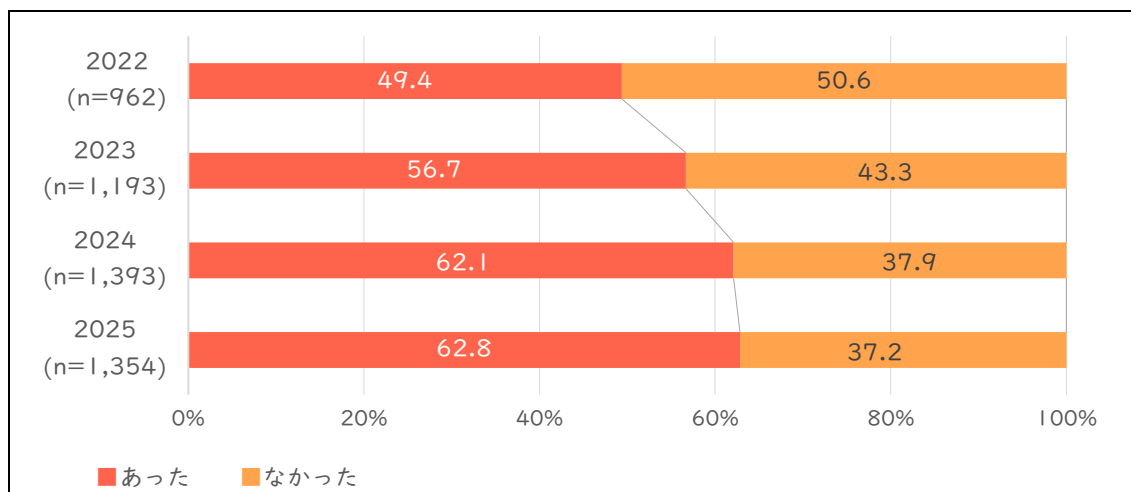


図 17 学科やウェルナビ等の先輩学生から履修や学修の支援を受ける機会の有無（％）

学科やウェルナビ等の先輩学生から履修や学修の支援を受ける機会の有無に関する調査では「なかった」と回答した学生が37.2%、一方、「あった」は62.8%となり、過去3か年の調査結果から増加傾向にあり、先輩学生から学修の支援を受ける機会が増加していることが分かる。

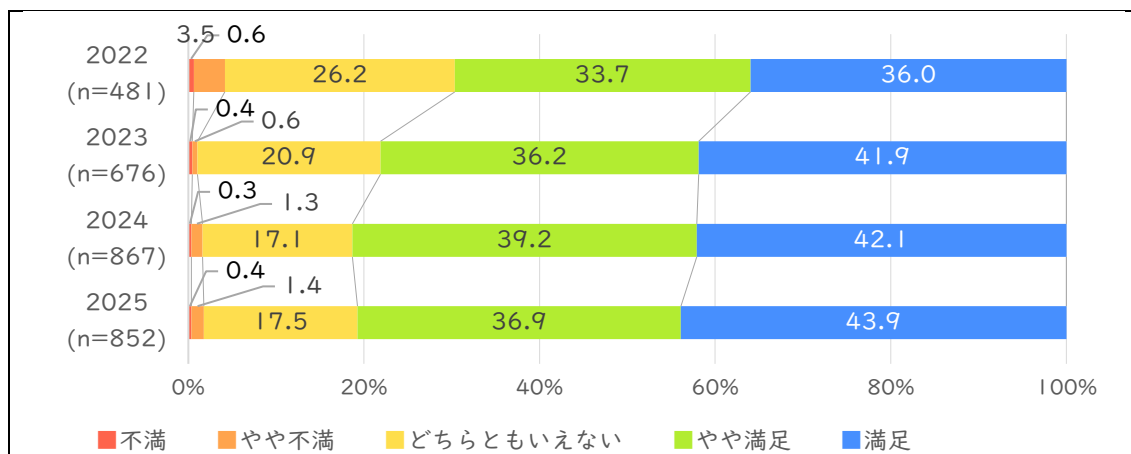


図 18 先輩学生からの履修や学修の支援に対する満足度 (%)

先輩学生からの履修や学修の支援に対する満足度に関する調査では、「満足」と回答した学生は 43.9%と最も高い割合であり、また、過去 3 か年の調査結果から増加傾向にある。

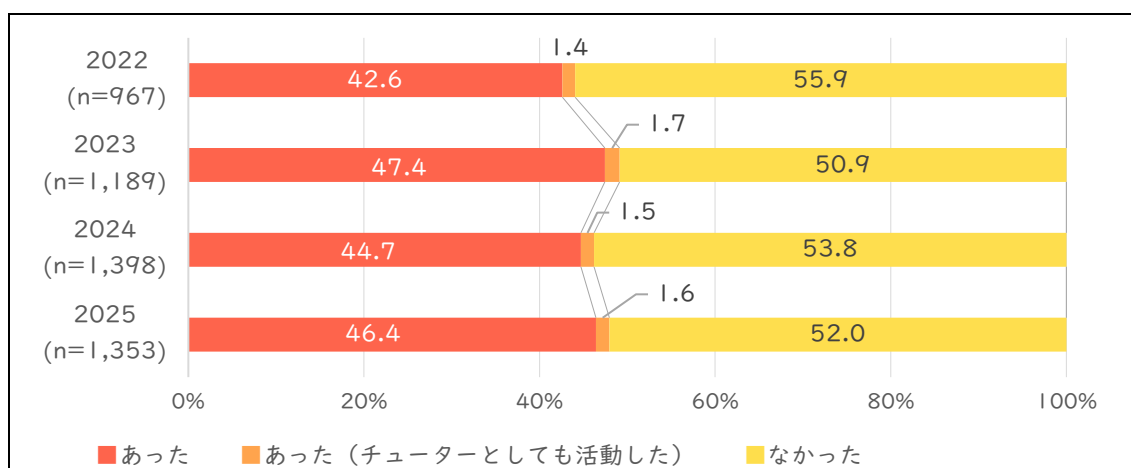


図 19 言語学習センターを利用する機会の有無 (%)

言語学習センターを利用する機会の有無に関する調査では、「なかった」と回答した学生の割合が 52.0%と前回調査 (2024 年度) と比較すると 1.8 ポイント減少した。

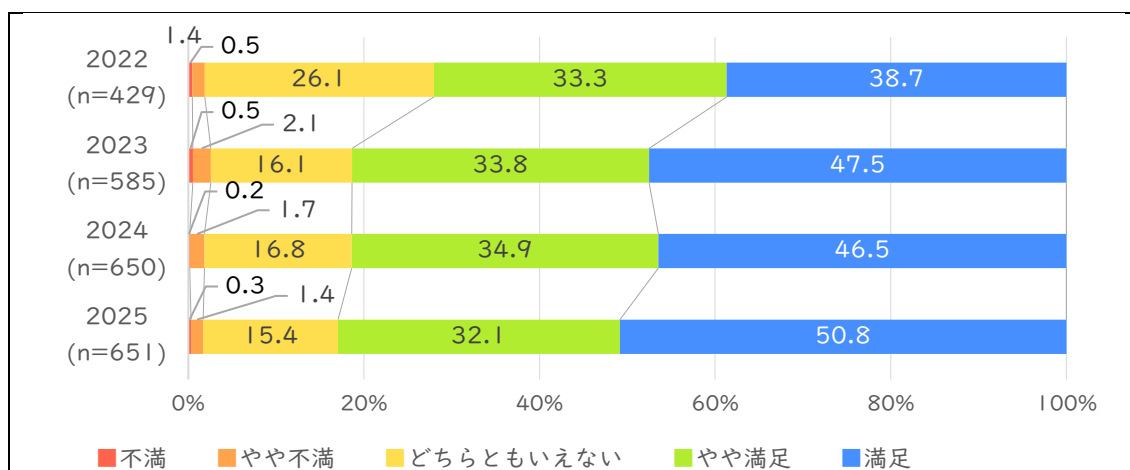


図 20 言語学習センターに対する満足度 (%)

言語学習センターに対する満足度に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 82.9%と、過去 3 年間の調査結果から増加傾向となっている。

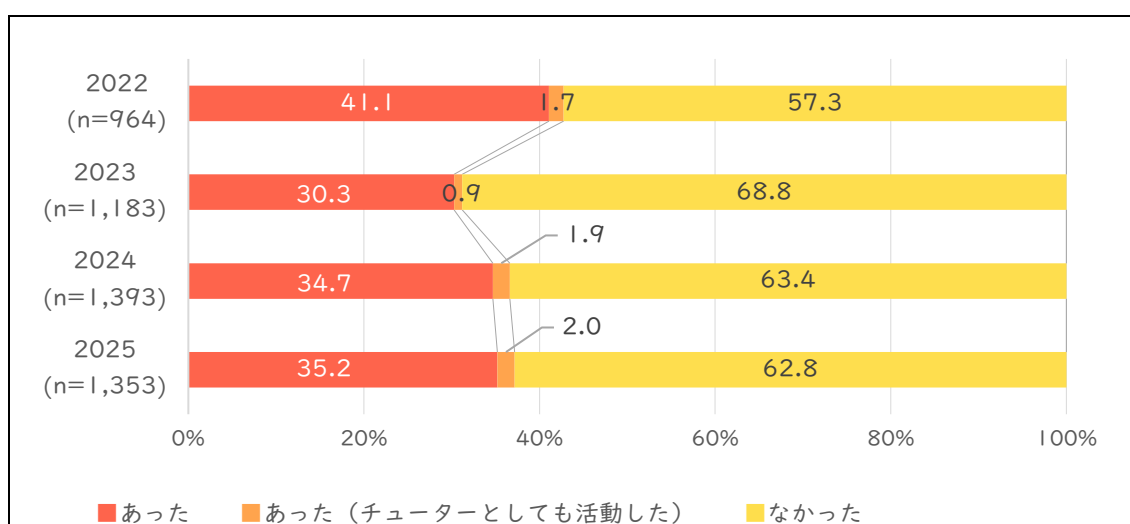


図 21 数理学習センターを利用する機会の有無 (%)

数理学習センターを利用する機会の有無に関する調査では、「なかった」と回答した学生の割合は 62.8%と前回調査 (2024 年度) から 0.8 ポイント減少している。

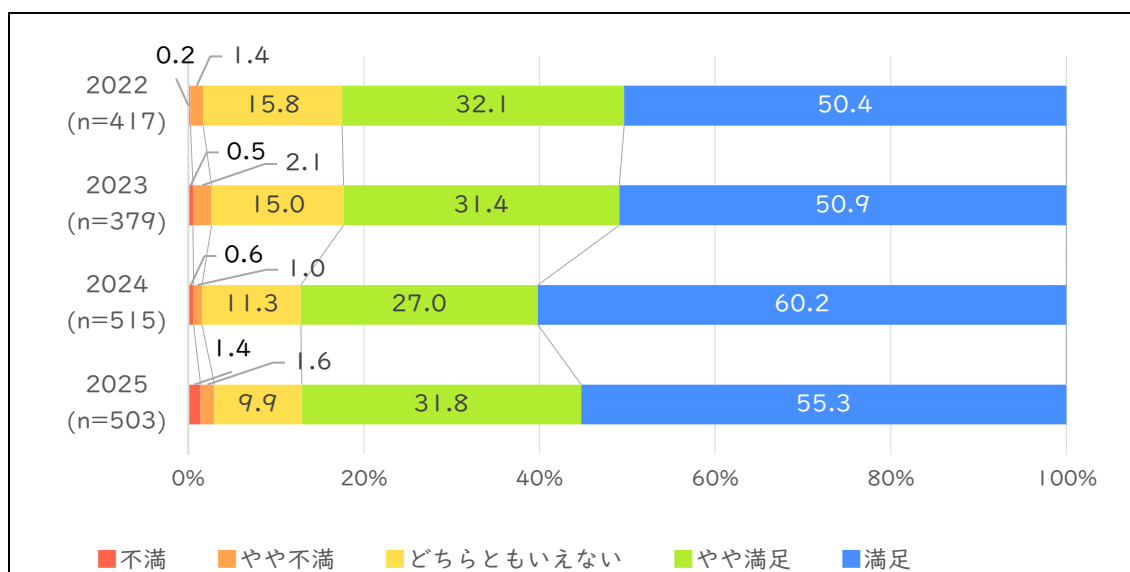


図 22 数理学習センターに対する満足度 (%)

数理学習センターに対する満足度に関する調査では、「満足」と回答した学生の割合が 55.3%と最も高い割合ではあるものの、前回調査（2024 年度）と比較すると 4.9 ポイントと減少した。一方、「不満」或いは「やや不満」と回答した学生の割合は 3.0%と前回調査（2024 年度）と比較すると 1.4 ポイント増加した。

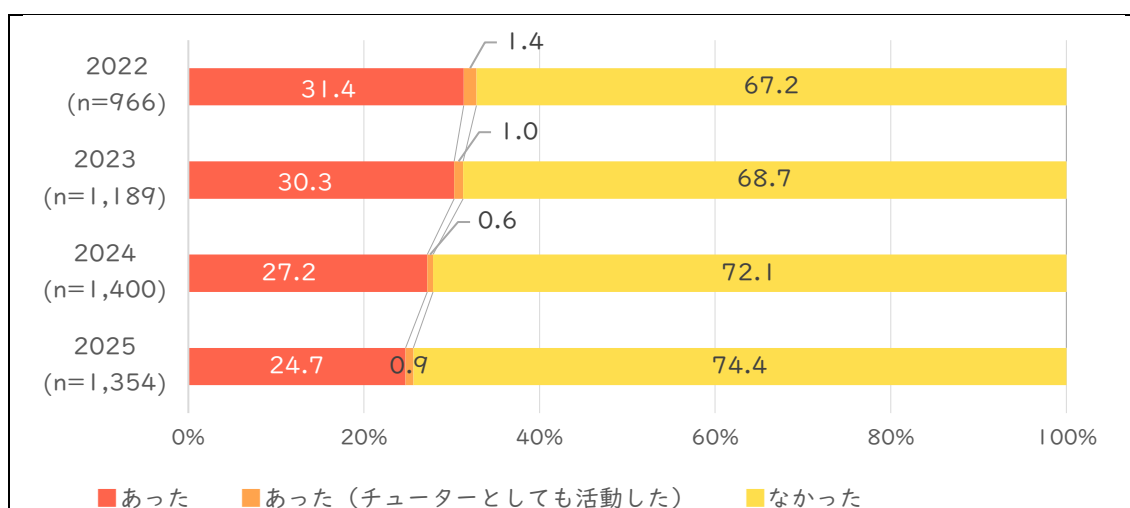


図 23 ライティングセンターを利用する機会の有無 (%)

ライティングセンターを利用する機会の有無に関する調査では、「なかった」と回答した学生の割合は 74.4%と最も高く、過去 3 か年の調査結果から増加傾向にある。

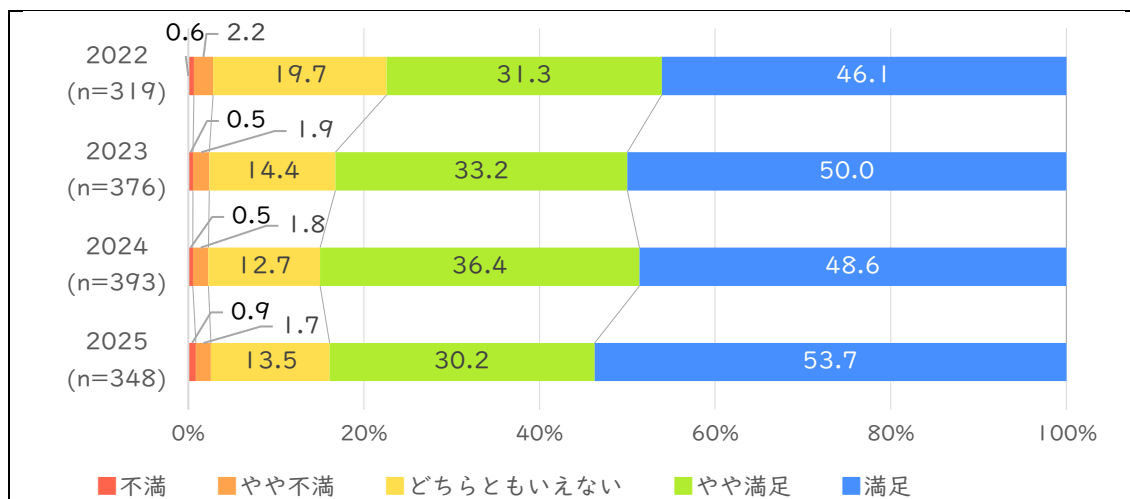


図 24 ライティングセンターに対する満足度 (%)

ライティングセンターに対する満足度に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 83.9%と高い割合となった。

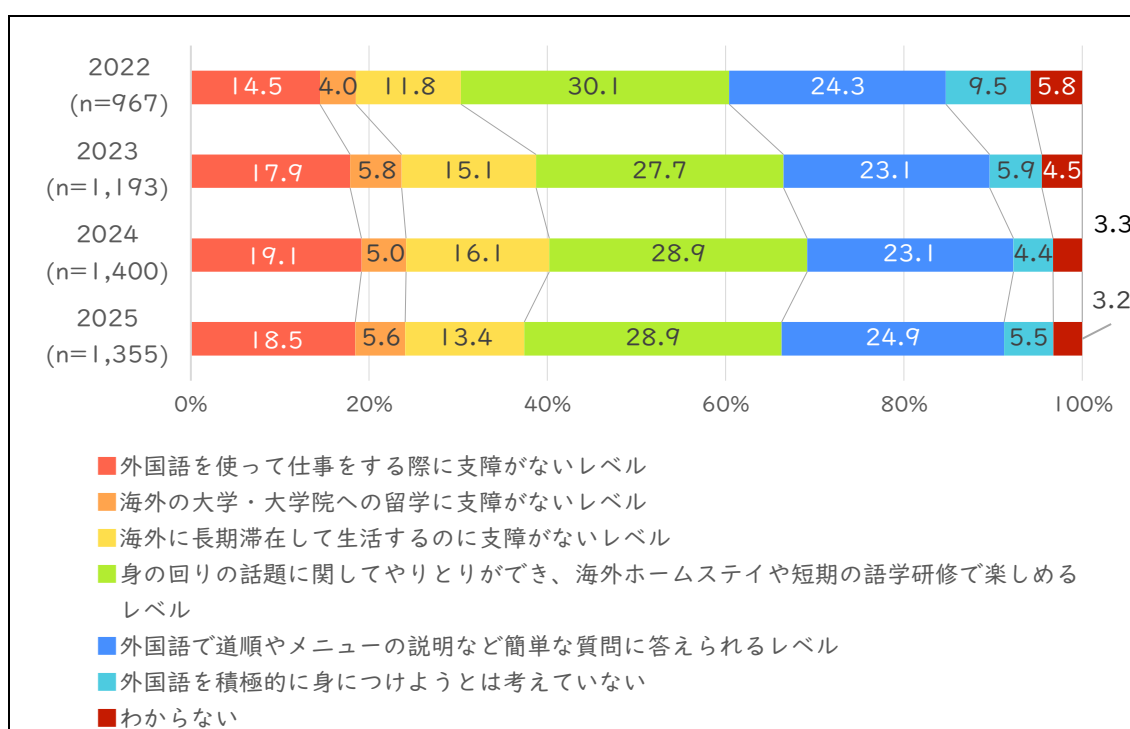


図 25 卒業までに身につけたい外国語力 (%)

卒業までに身につけたい外国語力に関する調査では、「身の回りの話題に関してやりとりができ、海外ホームステイや短期の語学研修で楽しめるレベル」と回答した学生の割合は 28.9%と最も高く、次に「外国語で道順やメニューの説明など簡単な質問に答えられるレベル」が 24.9%となった。また、「外国語を使って仕事をする際に支障がないレベル」と回答した学生の割合は 18.5%となった。

Ⅳ. 進路（キャリア形成）について

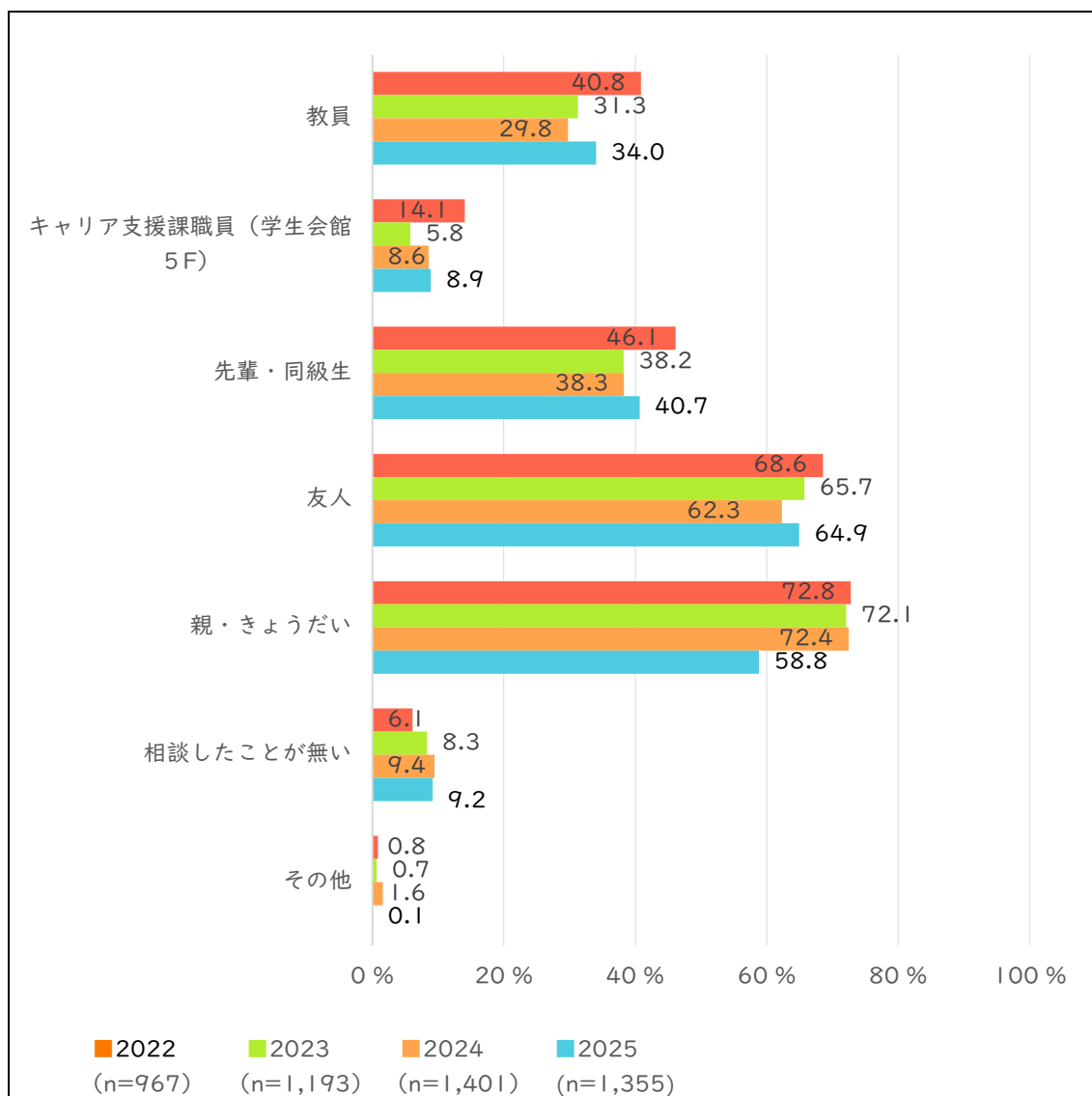


図 26 就職・進学等の進路についての相談相手（複数回答可）（％）

就職・進学等の進路についての相談相手に関する調査では、「友人」と回答した学生が 64.9%と最も高くなっている。次に「親・きょうだい」が 58.8%と多いが、前回調査（2024 年度）と比較すると 13.6 ポイント減少している。また、「教員」は 34.0%となっており、2023 年度の調査結果から増加傾向にある。

一方、「キャリア支援課職員」は 8.9%と前回調査（2024 年度）とほぼ同様の水準である。

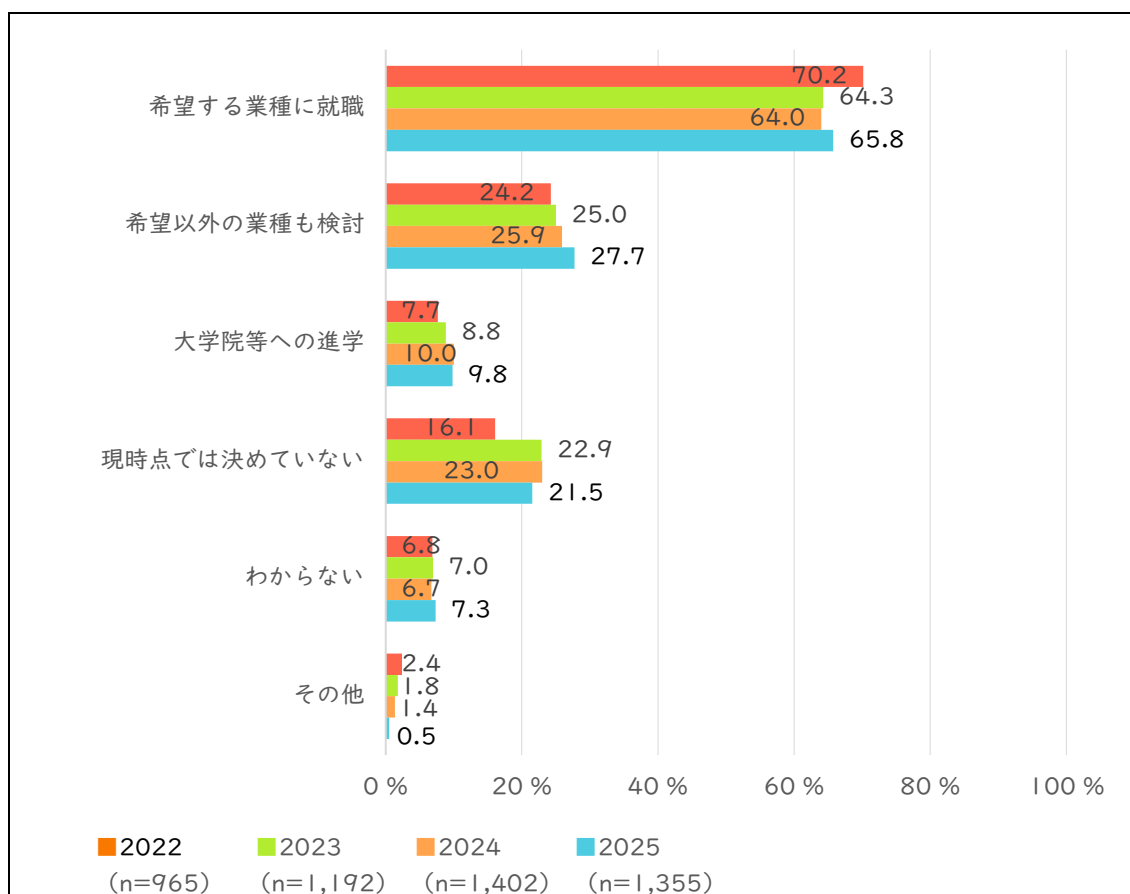


図 27 卒業後、希望する進路（複数回答可）（％）

卒業後、希望する進路に関する調査では、「希望する職種に就職」と回答した学生は 65.8%と最も高く、前年度の調査結果からは 1.8 ポイント増加している。また、「希望以外の業種も検討」と回答した学生は 27.7%となっており、過去 3 年間の調査結果からは増加傾向である。「現時点では決めていない」、或いは「わからない」と回答した学生は 28.8%となっているが、これは 3～4 年次学生の回答率が低いことが影響していると推測される。

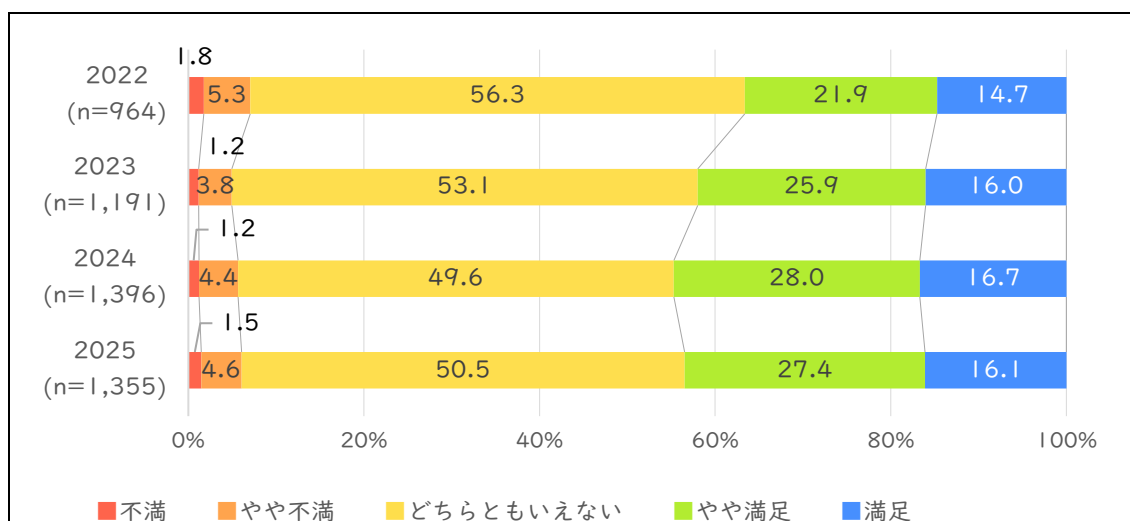


図 28 大学からの就職・進学等の進路支援についての満足度 (%)

大学からの就職・進学等の進路支援についての満足度に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生は 43.5%となっており、前回調査（2024 年度）から 1.2 ポイント減少している。一方、「不満」、「やや不満」或いは「どちらともいえない」と回答した学生は 56.6%と前回調査（2024 年度）から 1.4 ポイント増加している。過去 3 か年の調査結果から全体の半数以上の学生は本学が提供する進路支援に対し好意的な印象持っていないことがうかがえる。

V. 施設・大学生活について

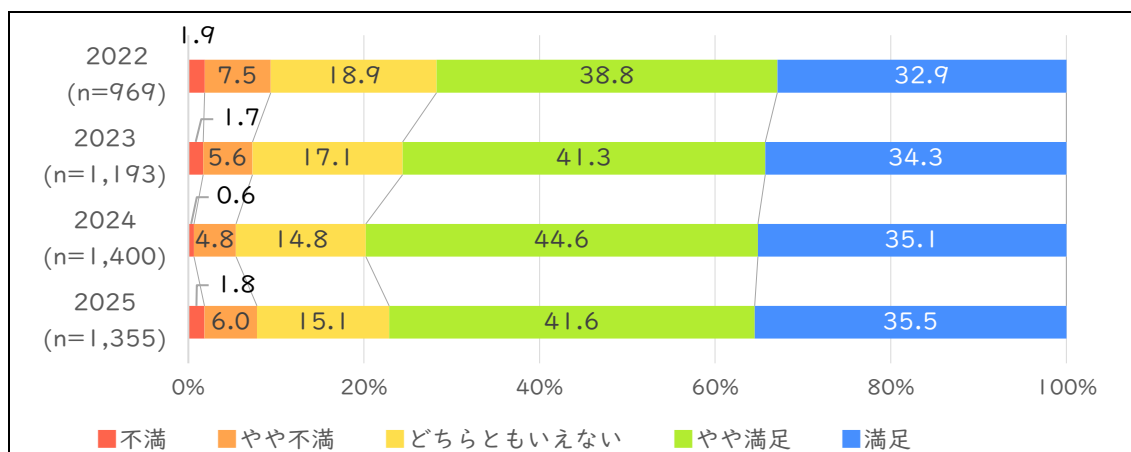


図 29 大学の学修環境の満足度【教室・講義室】 (%)

大学の学修環境の満足度【教室・講義室】の過去3年（2022年度～2024年度）の平均は75.7%、2025年は77.1%で1.4%増加であった。

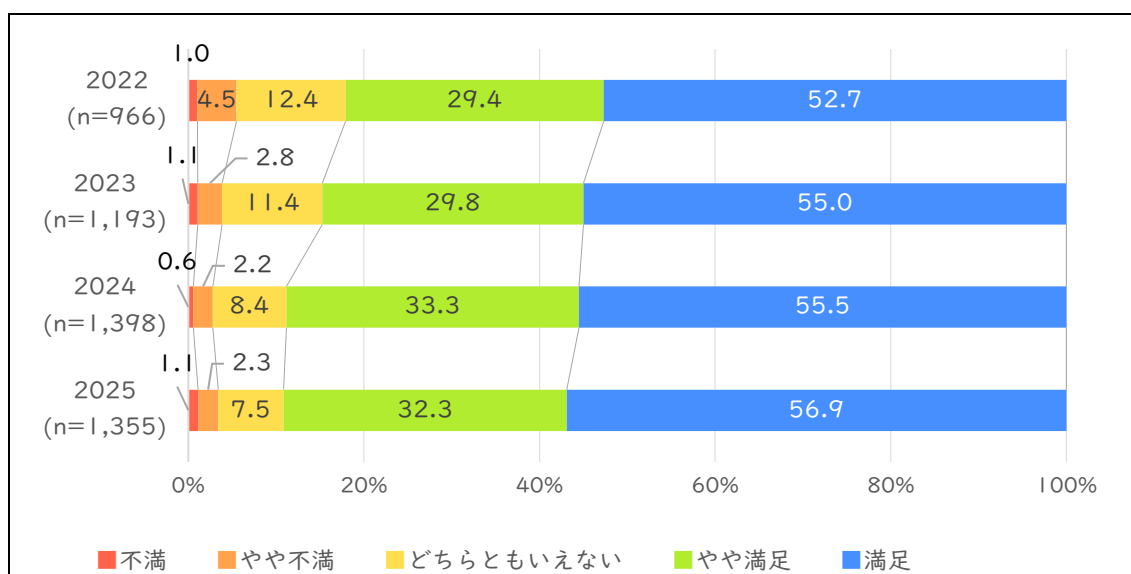


図 30 大学の学修環境の満足度【図書館】 (%)

大学の学修環境の満足度【図書館】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は89.2%と高い割合であり、過去3か年の調査結果から増加傾向にある。

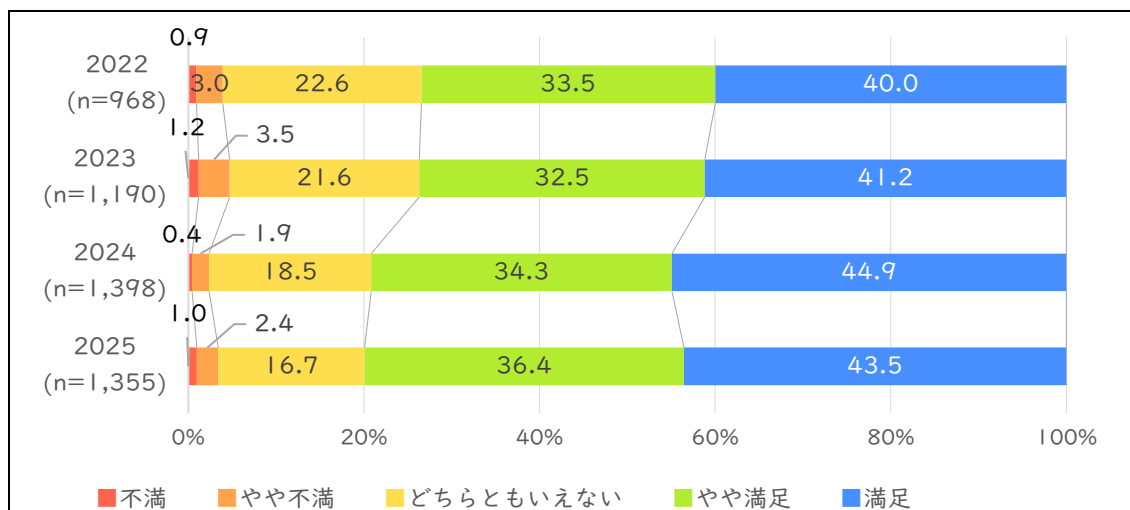


図 31 大学の学修環境の満足度【学生会館】 (%)

大学の学修環境の満足度【学生会館】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 79.9%と、過去 3 年の調査結果と比較すると増加傾向である。

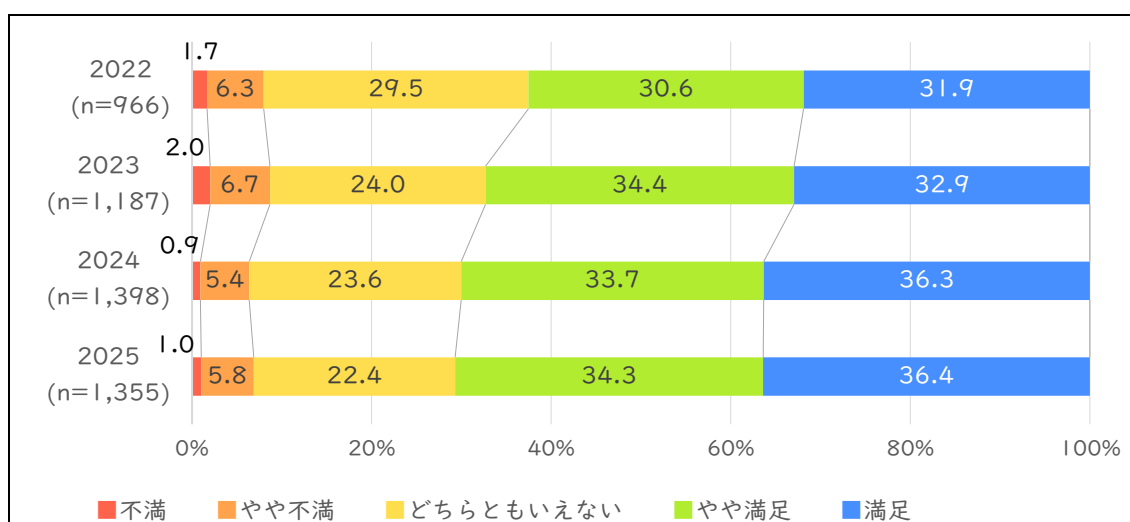


図 32 大学の学修環境の満足度【ICT 環境】 (%)

大学の学修環境の満足度【ICT 環境】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 70.7%となり、過去 3 か年の調査結果から増加傾向にある。

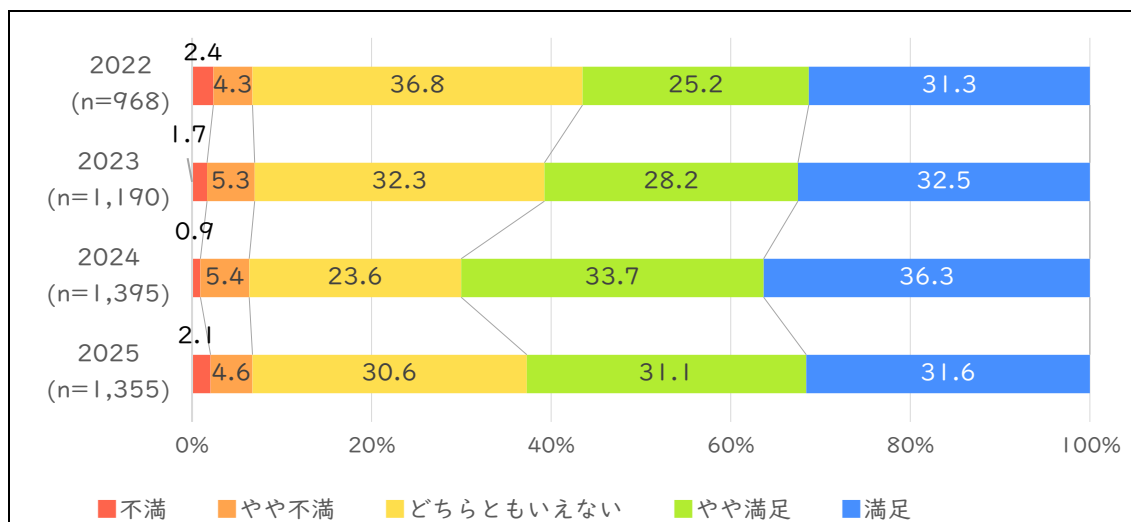


図 33 大学の学修環境の満足度【運動施設】 (%)

大学の学修環境の満足度【運動施設】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 62.7% となり、前年度の調査結果から 7.3 ポイント減少となっている。

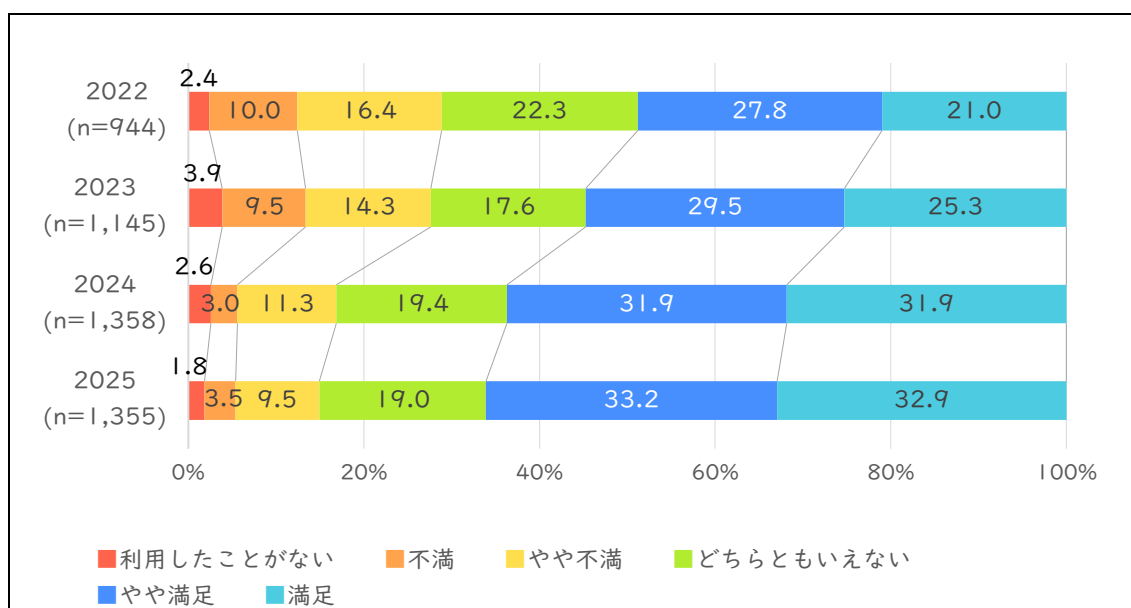


図 34 大学の福利厚生施設の満足度【売店（学生会館 1F）】 (%)

大学の福利厚生施設の満足度【売店（学生会館 1F）】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 66.1% となり、過去 3 か年の調査結果から増加傾向にある。一方、「不満」或いは「やや不満」と回答した学生は 13.0% となり、過去 3 年間の調査結果からと比較すると 0.5 ポイント減少した。

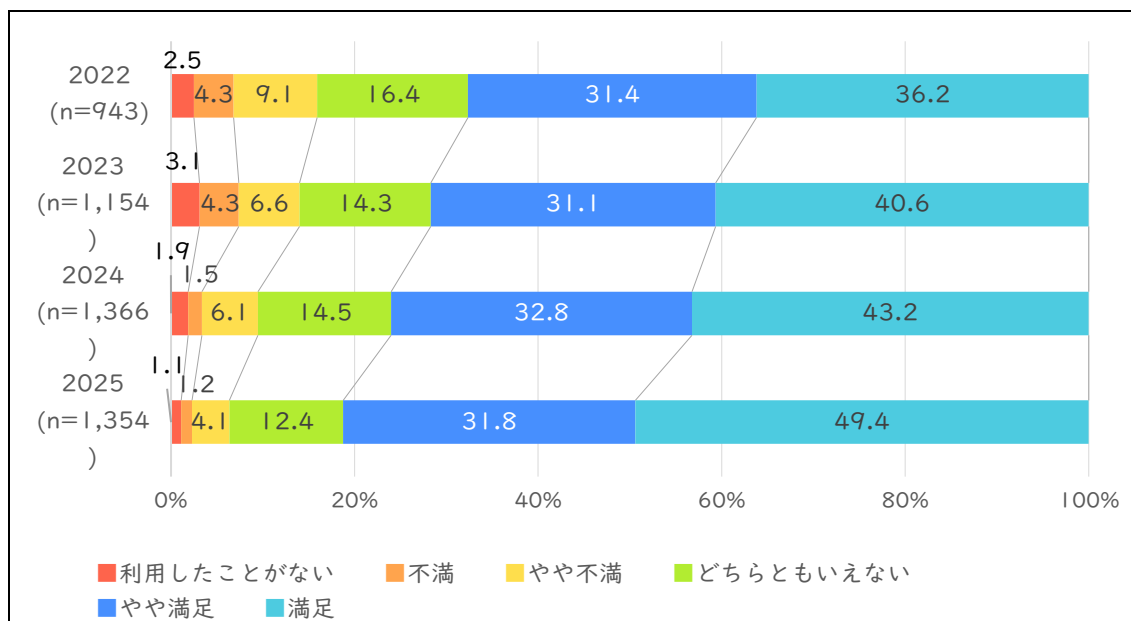


図 35 大学の福利厚生施設の満足度【カフェ（学生会館 2F）】（％）

大学の福利厚生施設の満足度【カフェ（学生会館 2F）】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 81.2% となり、過去 3 か年の調査結果から増加傾向にある。一方、「不満」と回答した学生は 1.2% となり過去 3 か年の調査結果から減少傾向にある。

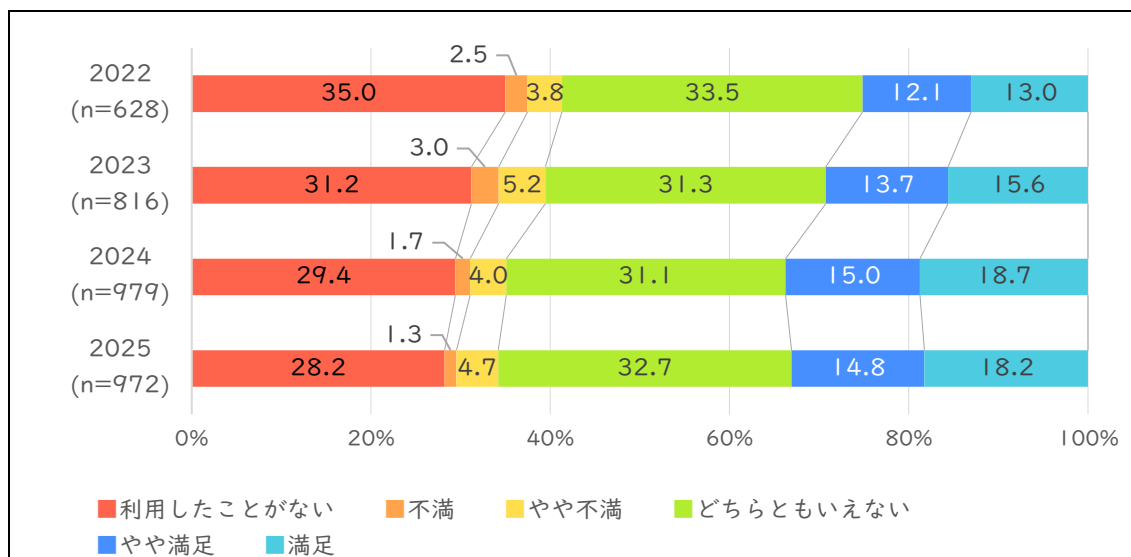


図 36 大学の福利厚生施設の満足度【サークル棟】（％）

大学の福利厚生施設の満足度【サークル棟】に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 33.0% となり、前年度の調査結果から 0.7 ポイントと微かに減少している。

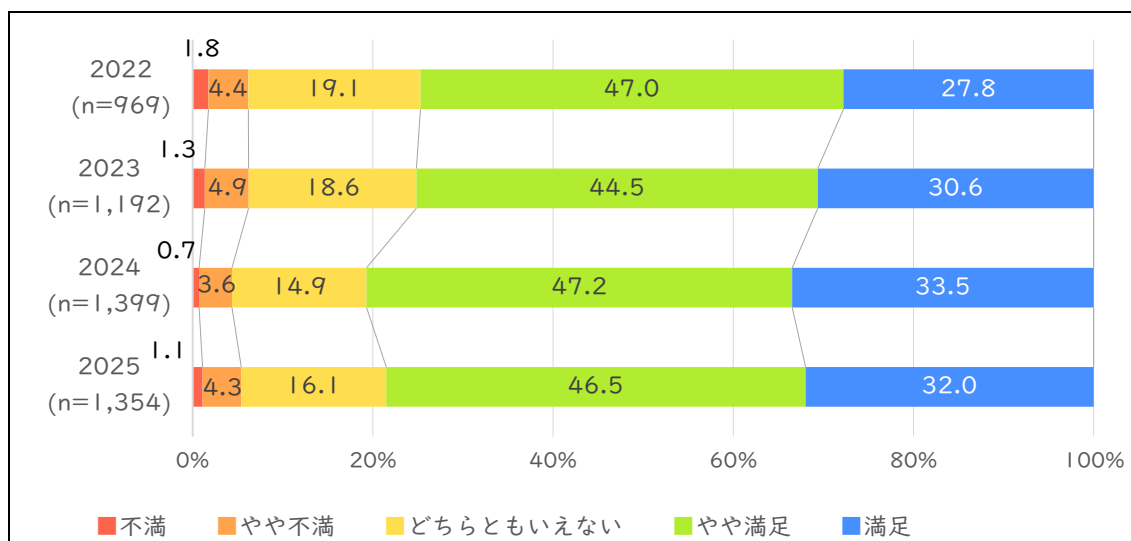


図 37 学生生活に関する満足度 (%)

学生生活に関する満足度に関する調査では、「満足」或いは「やや満足」と回答した学生の割合は 78.5% となり、前年度の調査結果から 2.2 ポイント減少している。

表 施設に関する自由記述回答内訳(357 件数)

売店・学食・カフェ	駐車場・施設全般	バス関連	科目関連	図書館
47 件	86 件	30 件	9 件	10 件

総 括

2025年度（令和7年度）学生生活実態調査

I 住まい及び経済状況について

住まい及び経済状況においては、駐車場・駐輪場や大学送迎バスの満足度が依然として課題となっています。駐車場・駐輪場への満足度は17.6%（2025年度）と前年度から2.6ポイント改善しましたが、「不満」とする回答も25.8%存在します。これは学生駐車場の増設による効果が見られるものの、依然として十分ではないことを示唆しています。一方、送迎バスの満足度は31.8%と前年度より3.7ポイント低下し、「不満・やや不満」が49.1%に達しており、改善が急務です。居住形態は「一人暮らし」が約76%と大半を占め、過去数年大きな変化はありません。アルバイトに関しては、従事する学生が86.0%（前年度比4.3ポイント増）と増加しました。目的は「生活費」が79.1%で最多ですが、「旅行・レジャー」や「教育費」も増加傾向にあり、学生の活動範囲やニーズの広がりが見られます。また、平均収入が6万円以上の学生が3年間で8.9%増加していることも特徴的です。

II 学生生活について

クラブ・サークル活動への参加状況は、2024年度調査で「所属していない」学生が48.0%に達するなど、学内活動の減少が見られましたが、2025年度もこの傾向の注視が必要です。休日の過ごし方は「寝る」「アルバイト」が上位を占めています。現在の悩み事については、「就職・進学等将来のこと」が47.8%（2025年度）と最も多く、前年度の43.8%から4.0ポイント増加しました。次いで「勉学上の悩み」が26.9%となっており、将来への不安や学業に関するストレスを抱える学生に対し、相談窓口の周知や学修支援のさらなる充実が求められます。

III 履修・学修について

履修支援については、約6割の学生が肯定的な意見を持っており、概ね良好に推移しています。各学習支援センター（言語、数理、ライティング）の満足度は高く、特に数理学習センターでは満足と回答した学生が55.3%に達しています。一方で、指導教員から直接履修指導を受けていない学生が58.4%（2024年度）と増加傾向にある点は課題です。しかし、先輩学生（ウェルナビ等）からの支援を受ける機会は増加しており（62.1%）、教員以外による多角的なサポート体制が一定の役割を果たしていると推察されます。自己学習時間については、約8割の学生が1日2時間未満という状況が続いています。

Ⅳ 進路（キャリア支援）について

進路の相談相手は、2024 年度までは「親・きょうだい」が最多（72.4%）でしたが、2025 年度調査では「友人」が 64.9%で最も高くなりました。希望する進路は「希望する職種に就職」が 65.8%と依然として高い水準です。大学の進路支援に対する満足度は、2025 年度で「満足・やや満足」が 43.5%に留まり、前年度から 1.2 ポイント減少しました。過去 3 年間の推移を見ても、半数以上の学生が支援に対して手放して肯定的な印象を持っていない状況です。キャリア開発委員会を中心に、学生のニーズに即した支援プログラムの再編や情報発信の強化が検討課題となります。

Ⅴ 施設・大学生活について

学内施設に対する満足度は、多くの項目で向上傾向にあります。特に図書館（満足度 89.2%）やカフェ（81.2%）、学生会館（79.9%）、教室、ICT 環境などは、学生ニーズに合わせた環境改善が評価されています。その一方で、運動施設（満足度 62.7%、前年比 7.3 ポイント減）やサークル棟については、他の施設と比較して満足度が伸び悩んでいます。これらは、クラブ活動の参加率低下とも関連している可能性があり、今後のサークル活動活性化に向けた環境整備の検討材料とする必要があります。大学生活全般の満足度は約 8 割と高い水準を維持しており、全体としては良好な大学環境が提供されていると評価できます。

学生サポート委員会

2025 年度（令和 7 年度）

2 ハラスメント・犯罪・薬物被害等に関する調査

学生サポート委員会

I. ハラスメントについて

I. 結果分析

回答者

性別

項目	2025 年度 (n=1,203)	2024 年度 (n=1,343)	2023 年度 (n=1,154)	2022 年度 (n=907)
男性	448 (37.2)	483 (36.0)	426 (36.9)	299 (33.0)
女性	745 (61.9)	841 (62.6)	719 (62.3)	599 (66.0)
その他	2 (0.2)	8 (0.6)	1 (0.1)	4 (0.4)
答えたくない	8 (0.7)	11 (0.8)	8 (0.7)	5 (0.6)

所属

項目	2025 年度 (n=1,203)	2024 年度 (n=1,343)	2023 年度 (n=1,154)	2022 年度 (n=907)
国際学群	86 (7.1)	193 (14.4)	223 (19.3)	365 (40.2)
国際文化学科	286 (23.8)	297 (22.1)	159 (13.8)	
国際観光産業学科	198 (16.5)	250 (18.6)	156 (13.5)	
スポーツ健康学科	192 (16.0)	194 (14.4)	332 (28.8)	295 (32.5)
看護学科	262 (21.8)	309 (23.0)	250 (21.7)	247 (27.2)
健康情報学科	179 (14.9)	100 (7.4)	34 (2.9)	

学年

項目	2025 年度 (n=1,203)	2024 年度 (n=1,343)	2023 年度 (n=1,154)	2022 年度 (n=907)
1 年	490 (40.7)	514 (38.3)	460 (39.9)	197 (21.7)
2 年	354 (29.4)	437 (32.5)	270 (23.4)	212 (23.4)
3 年	253 (21.0)	208 (15.5)	262 (22.7)	262 (28.9)
4 年	106 (8.8)	184 (13.7)	162 (14.0)	236 (26.0)

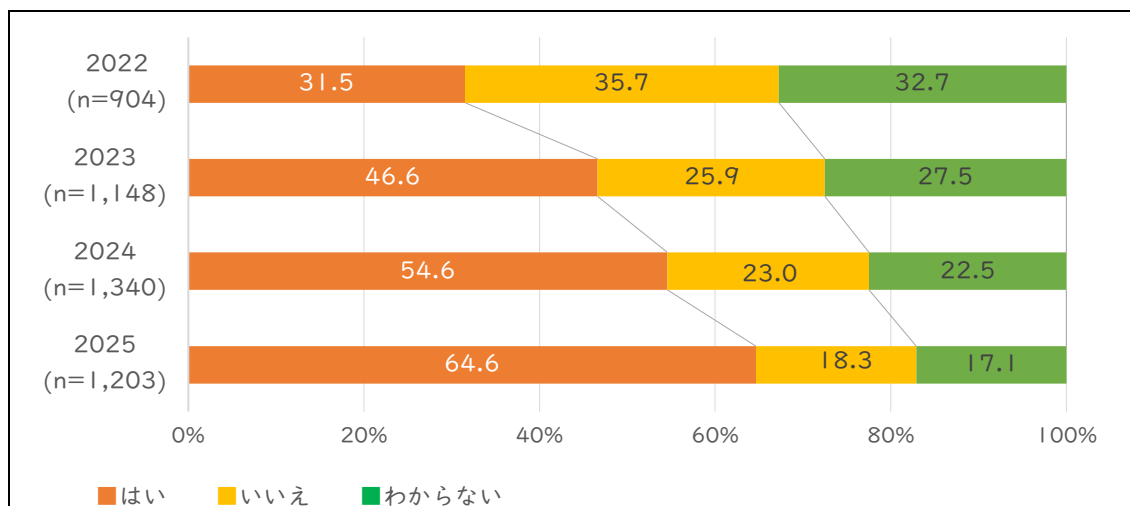


図 「ハラスメント防止」を啓発するポスター等を見た (%)

ハラスメント防止の啓発に関する認知度について、「啓発ポスター等を見た」と回答した学生の割合は、64.6%（前年度 54.6%）と 2 年連続半数以上となっている。一方で、「見たことがない」、「わからない」と回答した学生の割合は 35.4%（前年度 45.5%）となっている。

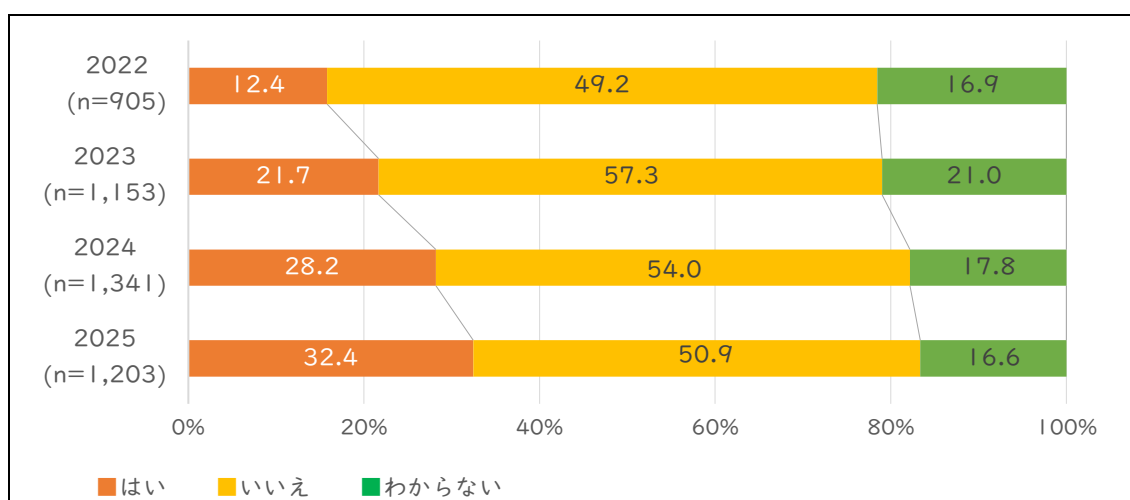


図 学内にハラスメントに係る相談窓口があることを知っている (%)

ハラスメントに係る相談窓口の認知度について、「知っている」と回答した学生の割合は、32.4%（前年度 28.2%）と対前年度比 4.2 ポイント上昇し改善が見られる。一方で、「知らない」、「わからない」と回答した学生は、減少傾向ではあるが 67.5%（前年度 71.8%）と依然として高い割合を示している。

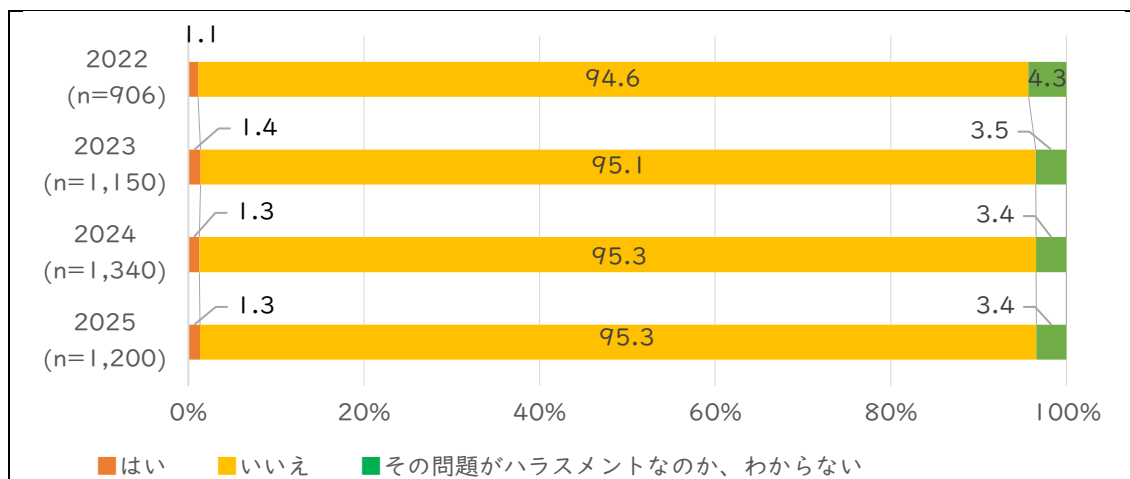


図 本学の関係者からハラスメントを受けたことがある (%)

本学の関係者からハラスメントを受けたことがあるかについては、「はい」と回答した学生の割合は、1.3%（前年度 1.3%）と低い割合ではあるが、過去 3 年間の状況から、僅かながら一定数の学生が何らかのハラスメント受けていると回答している。

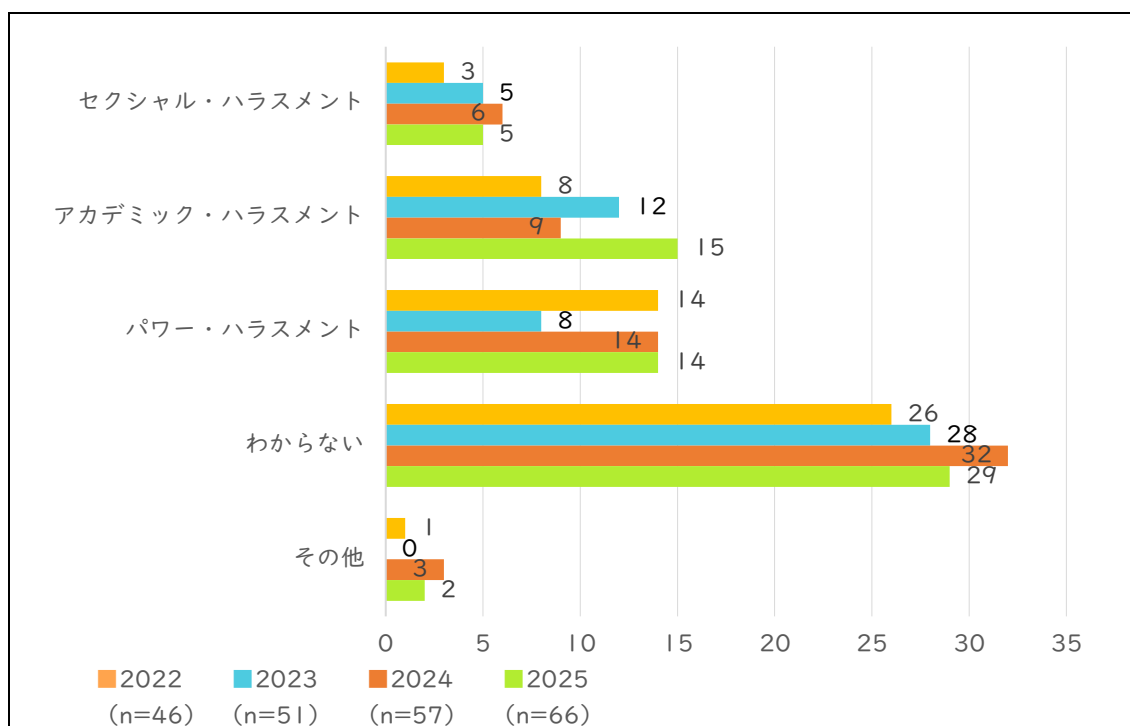


図 名桜大学生が受けたハラスメントの類別件数（複数回答可） (人)

学生が受けたハラスメントの種別件数については、「わからない」と回答した学生が 29 人（前年度 32 人）と最も多い。次に多い回答は「アカデミック・ハラスメント」15 人（前年度 9 人）であり、次いで「パワー・ハラスメント」14 人（前年度 14 人）となっている。

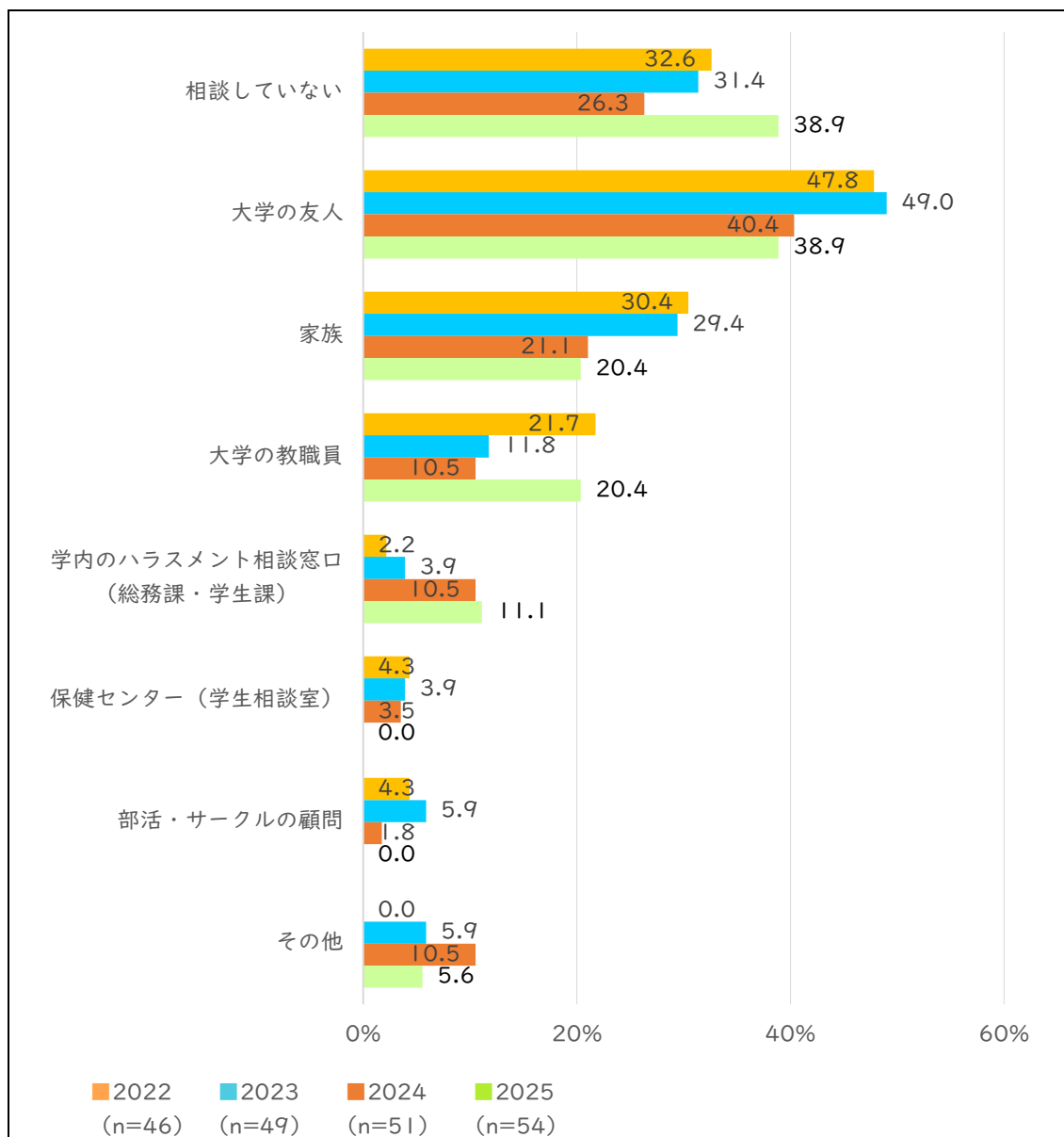


図 ハラスメントの相談相手（複数回答可）（%）

ハラスメントを受けた際の相談相手については、「大学の友人」と回答した学生の割合は38.9%（前年度40.4%）となっている。また、「家族」と回答している学生の割合は、20.4%（前年度21.1%）となっており、減少傾向になっている。一方で、「相談していない」と回答した学生の割合は38.9%（前年度26.3%）となっており、前年度から12.6ポイント増となっている。

また、「学内のハラスメント相談窓口」と回答した学生の割合は11.1%（前年度10.5%）となっており、過去3か年の調査結果から増加傾向にある。

Ⅱ. 犯罪・薬物被害について

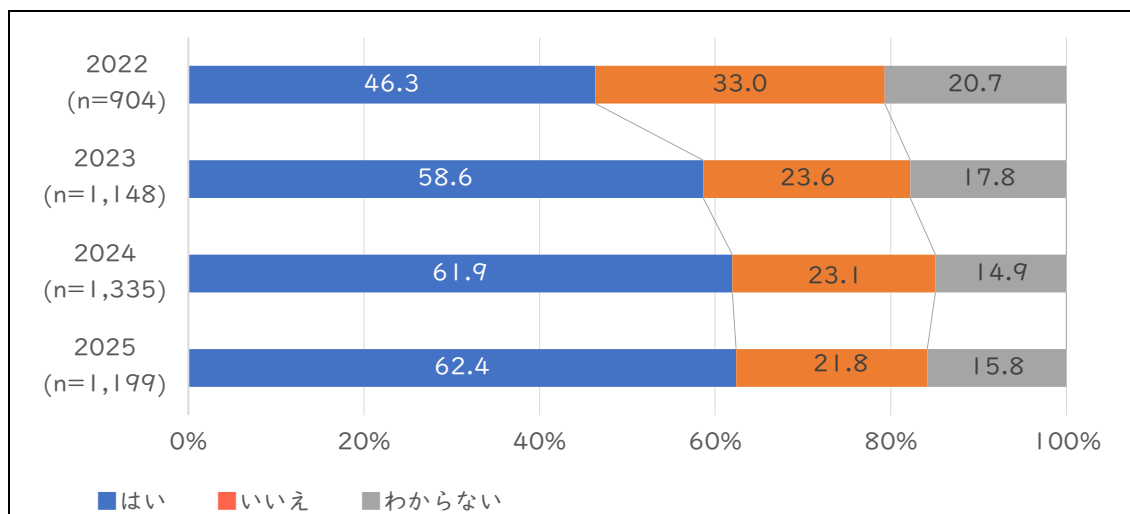


図 犯罪・薬物被害の啓発ポスター等を見た (%)

犯罪・薬物被害の啓発に関する認知度について、「啓発ポスター等を見た」と回答した学生の割合は、62.4%（前年度 61.9%）と半数以上となっている。一方で、「見たことがない」、「わからない」と回答した学生の割合は 37.6%（前年度 38.0%）となっている。

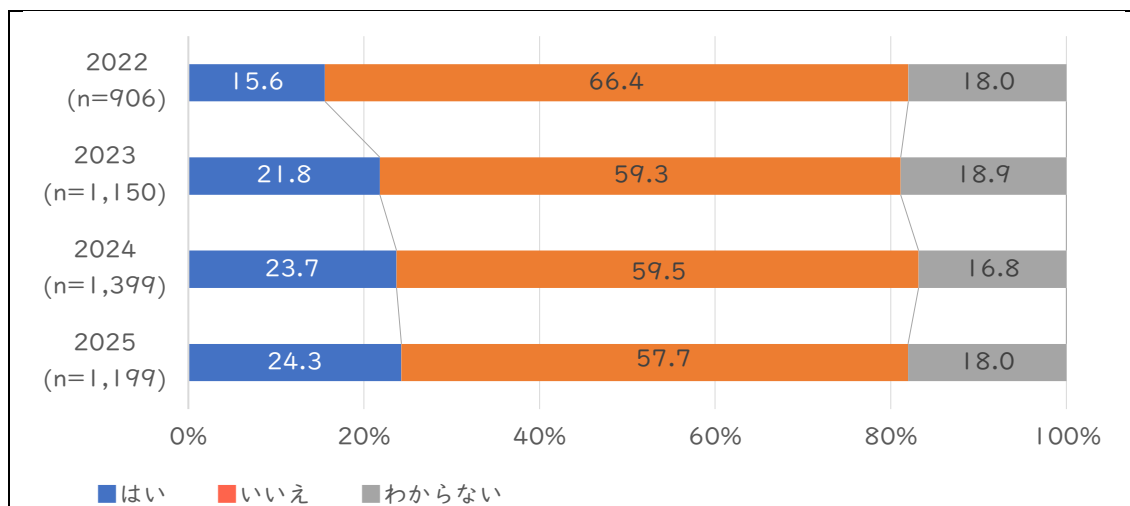


図 犯罪・薬物被害の相談窓口を知っている (%)

犯罪・薬物被害の相談窓口の認知度について、「知っている」と回答した学生の割合は、24.3%（前年度 23.7%）と微増となっている。一方で、「知らない」、「わからない」と回答した学生は、75.7%（前年度 76.3%）と依然として高い割合を示している。

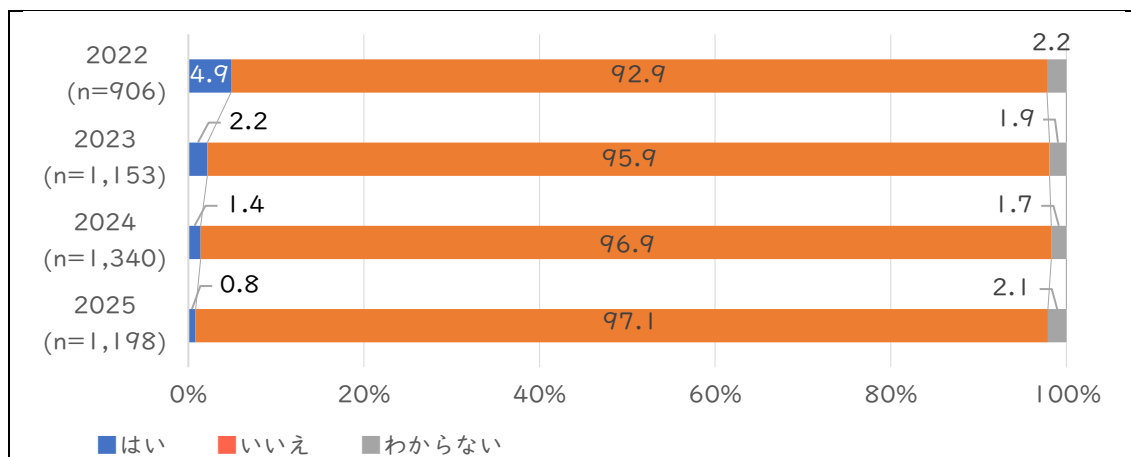


図 入学後、甘い儲け話に誘われたことがある (%)

入学後、甘い儲け話に誘われたことがあるかについて、「はい」と回答した学生の割合は、0.8%（前年度 1.4%）となっており、過去3か年連続して減少している。一方で、「いいえ」、「わからない」と回答した学生は、99.2%（前年度 98.6%）と高い割合を示している。

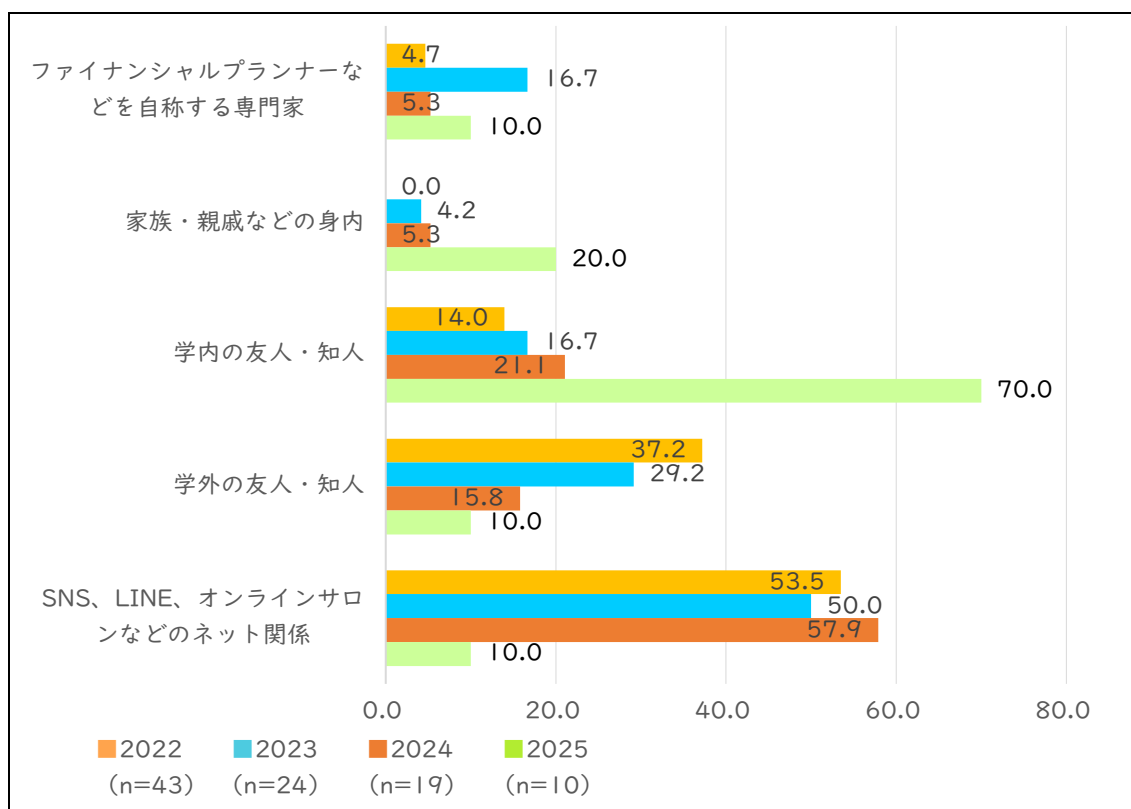


図 甘い儲け話に、誰から誘われたか（複数回答可） (%)

甘い儲け話に、誰から誘われたかについては、「学内の友人・知人」と回答した学生の割合は、70.0%（前年度 21.1%）と最も高く、次に「家族・親戚などの身内」20.0%（前年度 5.3%）、となっている。

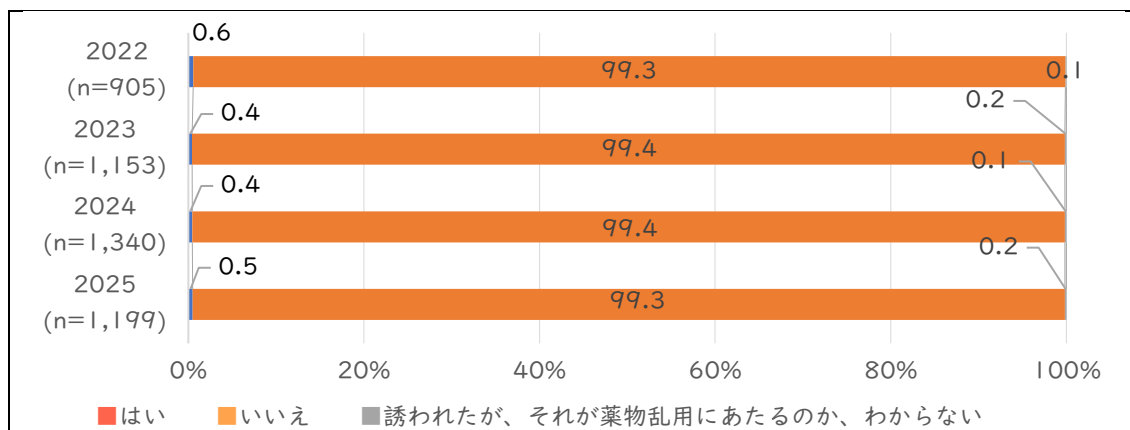


図 入学後、薬物使用（麻薬・ドラッグなど）に誘われたことがある (%)

入学後、薬物使用（麻薬・ドラッグなど）に誘われたことがあるかについて、「はい」、「誘われたが、それが薬物乱用にあたるのか、わからない」と回答した学生の割合は、0.7%（前年度 0.5%）となっている。一方で、「いいえ」と回答した学生は、99.3%（前年度 99.4%）となっている。

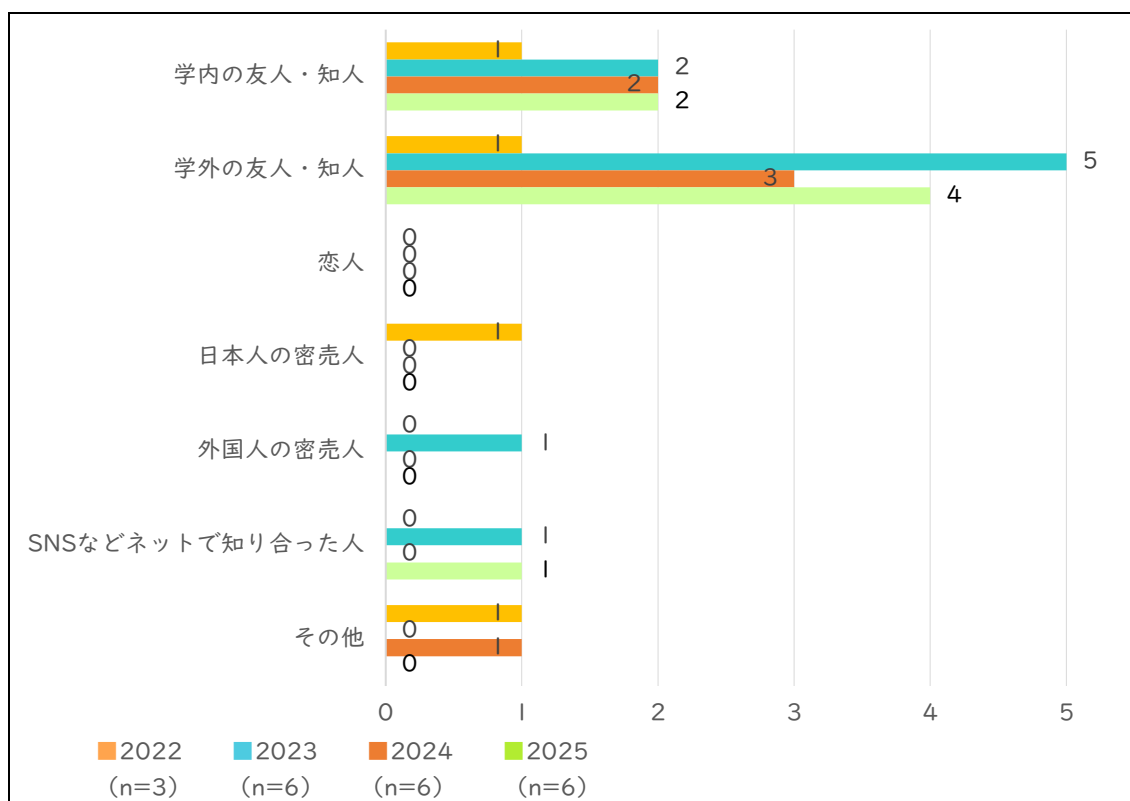


図 薬物使用（麻薬・ドラッグなど）に、誰から誘われたか（複数回答可） (人)

薬物使用（麻薬・ドラッグなど）に、誰から誘われたかについては、「学外の友人・知人」と回答した学生数は、4人（前年度 3人）と最も高く、次に「学内の友人・知人」2人（前年度 2人）となっている。「恋人」、「日本人の密売人」、「外国人の密売人」と回答した学生は 0人であった。

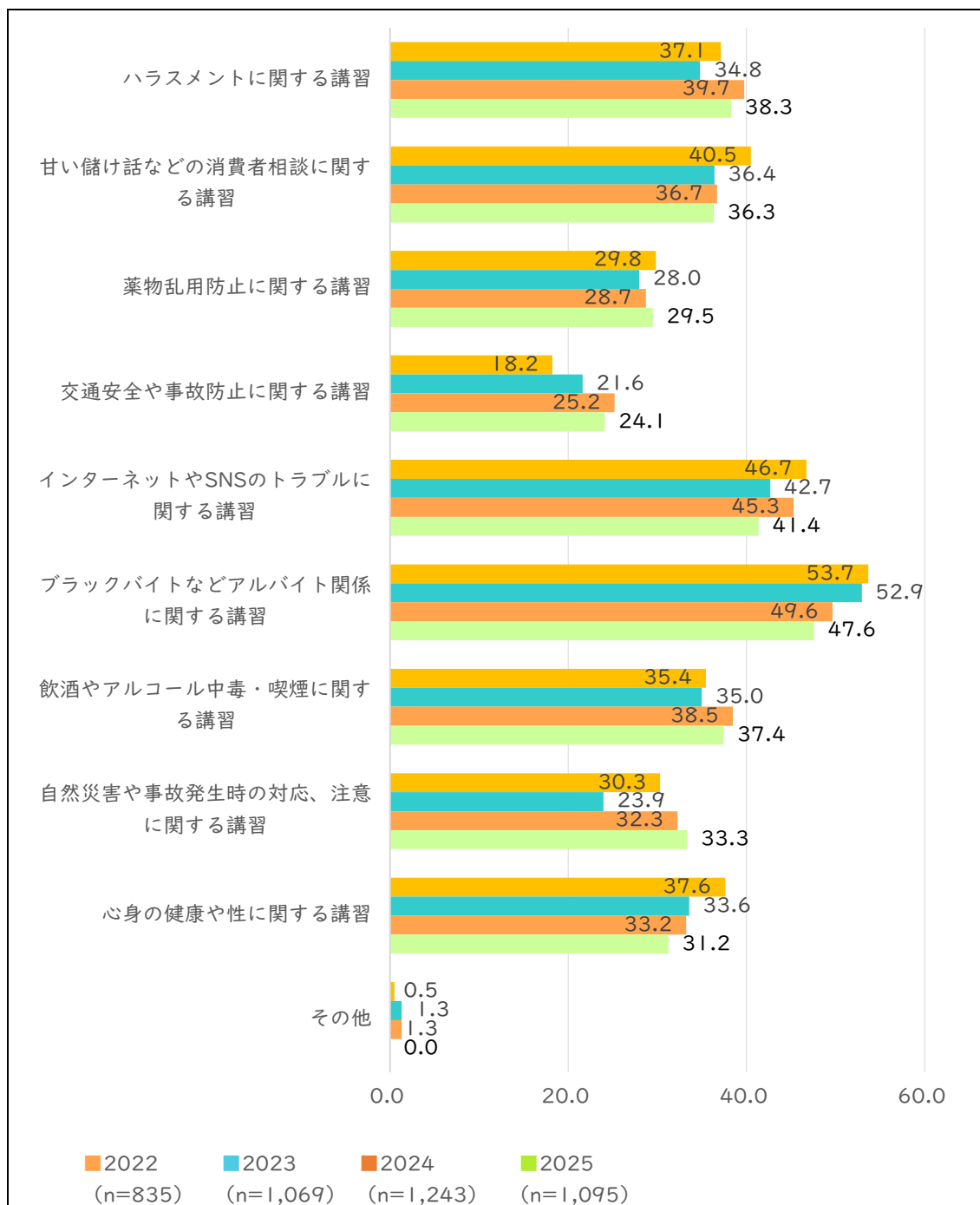


図 希望する学生生活のための講習会（複数回答可）（％）

希望する学生生活のための講習会については、「ブラックバイトなどアルバイト関係に関する講習」と回答した学生の割合は、47.6％（前年度 49.6％）と最も高く、次に「インターネットや SNS のトラブルに関する講習」41.4％（前年度 45.3％）、「ハラスメントに関する講習」38.3％（前年度 39.7％）が続いている。

ハラスメント・犯罪・薬物非該等に関する調査

I. ハラスメントについて

ハラスメント防止の啓発に関する認知度は、啓発ポスター等を「見た」と回答した学生が64.6%（前年度54.6%）に達し、2年連続で半数を超え改善傾向にあります。また、相談窓口の認知度も32.4%（前年度28.2%）と前年度から4.2ポイント上昇しました。しかし、依然として約7割の学生が窓口を「知らない・わからない」と回答しており、周知活動には継続的な工夫が必要です。

次に、本学関係者からハラスメントを受けた経験については1.3%（前年度1.3%）と横ばいですが、一定数の学生が被害を訴えている現状に変わりはありません。特に、被害を受けた際の相談相手として「相談していない」と回答した割合が38.9%（前年度26.3%）と大幅に増加している点は、深刻な課題です。一方で、「学内の相談窓口」への相談割合は11.1%（前年度10.5%）と微増傾向にあります。

今後は、潜在化する被害を防ぐためにも、教職員・学生への定期的な啓発講習会を継続し、学生が主体となって啓発活動を行える体制（学生課による支援等）をさらに強化することが、未然防止と早期発見につながると考えられます。

II. 犯罪・薬物被害について

犯罪・薬物被害の啓発ポスター等の認知度は62.4%（前年度61.9%）と過半数を維持していますが、相談窓口の認知度は24.3%（前年度23.7%）に留まっており、ハラスメント窓口以上に周知不足、あるいは学生の関心の低さがうかがえます。

次に、「甘い儲け話」の誘いを受けた割合は0.8%（前年度1.4%）と、4年連続で減少しました。しかし、誘い主として「学内の友人・知人」が70.0%（前年度21.1%）と急増しており、身近な人間関係を介したトラブルへの注意喚起が急務です。薬物使用の勧誘については、今年度も一定数（約0.7%）の回答があり、主に学外の友人・知人から誘われる傾向が続いています。沖縄県実施の「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動」月間等と連動するなど、学内での周知をさらに強化する必要があります。

また、希望する講習会については、「ブラックバイト（47.6%）」「ネット・SNSトラブル（41.4%）」「ハラスメント（38.3%）」の順に高く、学生が日常生活の中で直面するトラブルに対して強い不安と課題感を持っていることがわかります。

【総括】

昨年度に続き、学生課として、従来のオリエンテーションや掲示による周知に加え、学生が主体となって啓発活動を行うことで、問題をより身近な事象として捉えられるよう支援を継続します。学生が「加害者にも被害者にもならない」安全な学生生活を送れるよう、講演会やデジタルコンテンツ等を活用した多角的な注意喚起を徹底することが重要だと考えます。